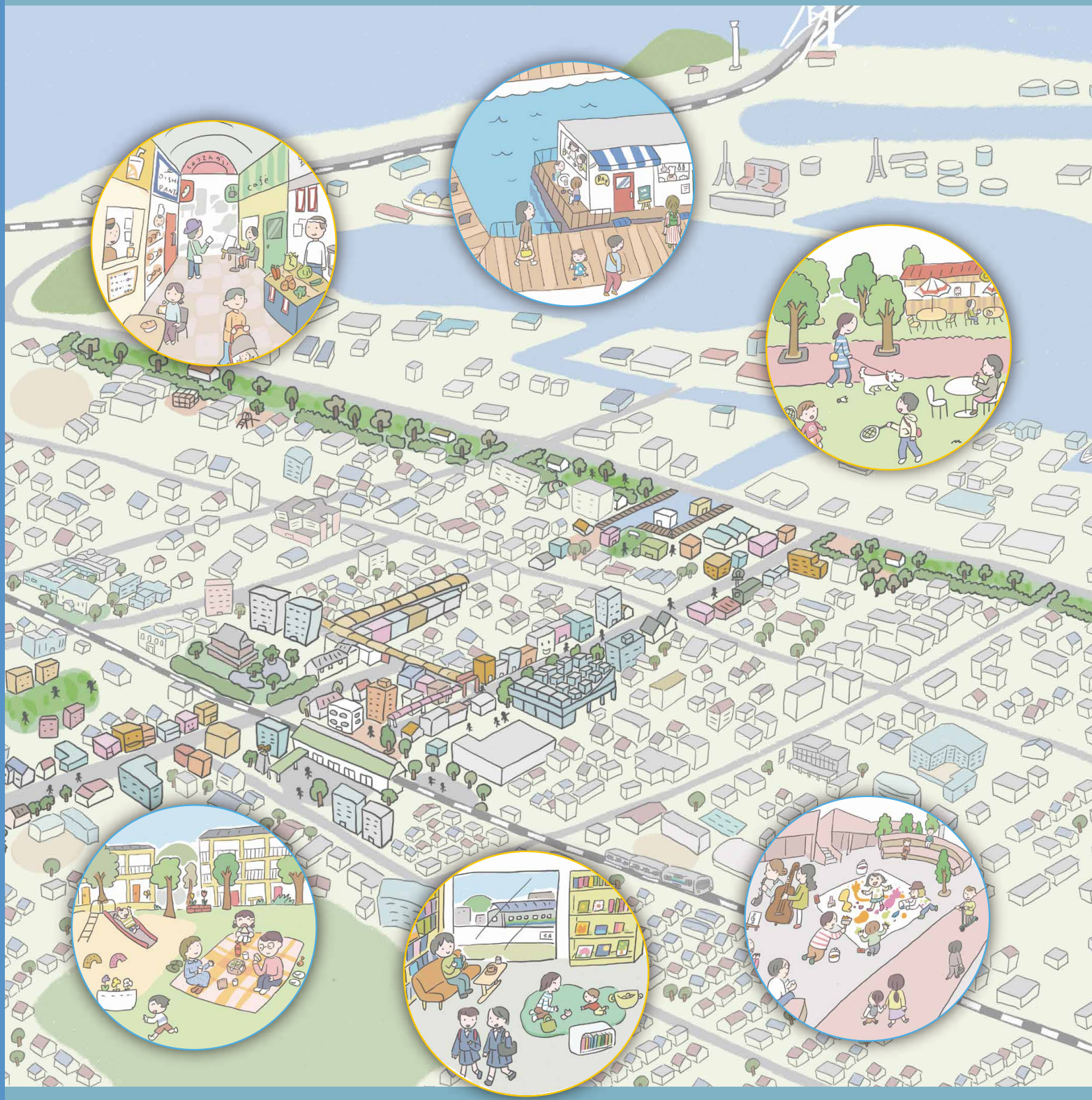
坂出駅周辺再整備基本構想

みんなの“ココチよさ”が かなうまち

～まちをひらき、未来をひらく～



坂出市
Sakaide City

坂出駅周辺再整備基本構想

-目次-

1. はじめに

1－1. 目的 1

1－2. 市全体のまちづくりビジョン 1

1－3. 検討区域の設定 2

2. 坂出駅を中心とする中心市街地におけるまちづくりの検討

2－1. 現況 4

（1） 地勢 4

（2） 人口 10

（3） 経済 15

（4） 都市機能 17

2－2. 中心市街地再生に向けた上位関連計画の整理 24

（1） 上位計画 25

（2） 関連計画 26

2－3. 市民意向調査 27

（1） アンケート調査 27

（2） さかいで未来会議（高校生ワークショップ） 32

2－4. 中心市街地再生の基本的な考え方 35

（1） 再生コンセプト 35

（2） コンセプトを支える取組 37

（3） 実現に向けたイメージ 38

（4） 居場所としての 6 つのエリアの特徴をふまえた方向性 39

2－5. 中心市街地再生戦略 45

（1） 全体戦略 45

（2） 重点地区選定の考え方 45

（3） 中心軸の考え方 46

3. 坂出駅前エリア再整備の検討

3－1. 居場所としてのエリアの特徴をふまえた方向性 47

3－2. 求められる場と活動のイメージ例 47

3－3. 現況と課題 48

（1） 現況 48

（2） 課題 48

3－4. 再整備の考え方 50

（1） 駅前空間再編の考え方 50

（2） 拠点施設整備の考え方 51

（3） 市民や民間との共創の考え方 52

3－5. 駅前空間再編の検討 53

3－6. 今後の検討課題 55

3－7. 今後の進め方 56

（1） 事業手法 56

（2） 整備スケジュール 56

1．はじめに

1－1. 目的

近年、深刻な人口減少や少子高齢化の加速といった地域としての従来の課題に加え、新型コロナウイルス禍を契機として、人々の意識や価値観の変化、生活様式の多様化に伴い、まちづくりにおいても新たなニーズへの対応が求められている。

これからのまちづくりにおいては、これらの課題を的確に捉えた長期的視点に基づく持続可能なまちづくりが必要であり、行政のみならず民間との連携による地域活力の維持・向上が不可欠であると考えられ、そのためには、地域における多様な主体と新たなまちの価値を創造するビジョンを共有することが重要である。

本市においては、主に子育て世代をターゲットとして「坂出に住みたい」、「坂出で子育てしたい」と思われるようなまちづくりを進めることで、「まちの価値」を高めることをめざしている。

本構想は、本市の実情を的確に捉えるとともに、今後の社会情勢の変化などを踏まえ、JR坂出駅を中心とする中心市街地におけるまちづくりの方向性を示すことで、本市が抱える地域課題の解決と本市がめざすまちづくりの将来像の実現につなげるものである。

1－2. 市全体のまちづくりビジョン

本市における今後のまちづくりについては、JR坂出駅の交通利便性の高さや、駅周辺での新規住宅供給、高い昼夜間人口比率に象徴される仕事の豊富さといった、**坂出の強みや可能性をいかすことが重要**である。

今後、暮らしの満足度を向上させることで「働くまち」からイメージの転換を図り、**「働くまち」と「住むまち」が両立**できるまちづくりをめざす。

「住むまち」には、日々の暮らしの中で、**満足感や幸福感を感じられるような「居場所」「機会」**がいかに多く存在するかが重要であり、価値観の多様性や居心地のよさ、安全性、環境への優しさなどを強化することで、**子育て世代をターゲットに、選ばれるまち**にしていく必要がある。

そのため、中心市街地においては、子育て世代などの多様な世代が日常的に集い交流し、**幸せを実感できるような居場所づくり**や、居心地の良い歩きたくなる**ウォーカブルなまちづくり**を積極的に展開する。

また、持続可能なまちづくりの実現には、市民や民間事業者等、**多様な主体との連携や協働**が重要となることから、民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用するなど、**公民連携を軸とした行財政運営と魅力あるまちづくり**に取り組んでいく。

1－3. 検討区域の設定

本構想は、坂出駅を中心とした中心市街地再生の方向性を示すものであり、その検討にあたっては、中心市街地を広く検討の対象とする。具体的には下記の視点で中心市街地を捉え、分析、検討を進める。

- 中心市街地は、特に区域を明確に規定するものではなく、概ねの範囲として捉える。
- 中心市街地は、坂出駅から半径 800m（※1）から 1㎞ を概ねの範囲とする。
- 坂出駅から半径 800mから 1㎞ の範囲は、立地適正化計画（※2）における「都市機能誘導区域（※3）」を包含するものである。
- 坂出駅周辺とは、坂出駅から半径 500m（※4）の範囲を概ねの範囲とする。

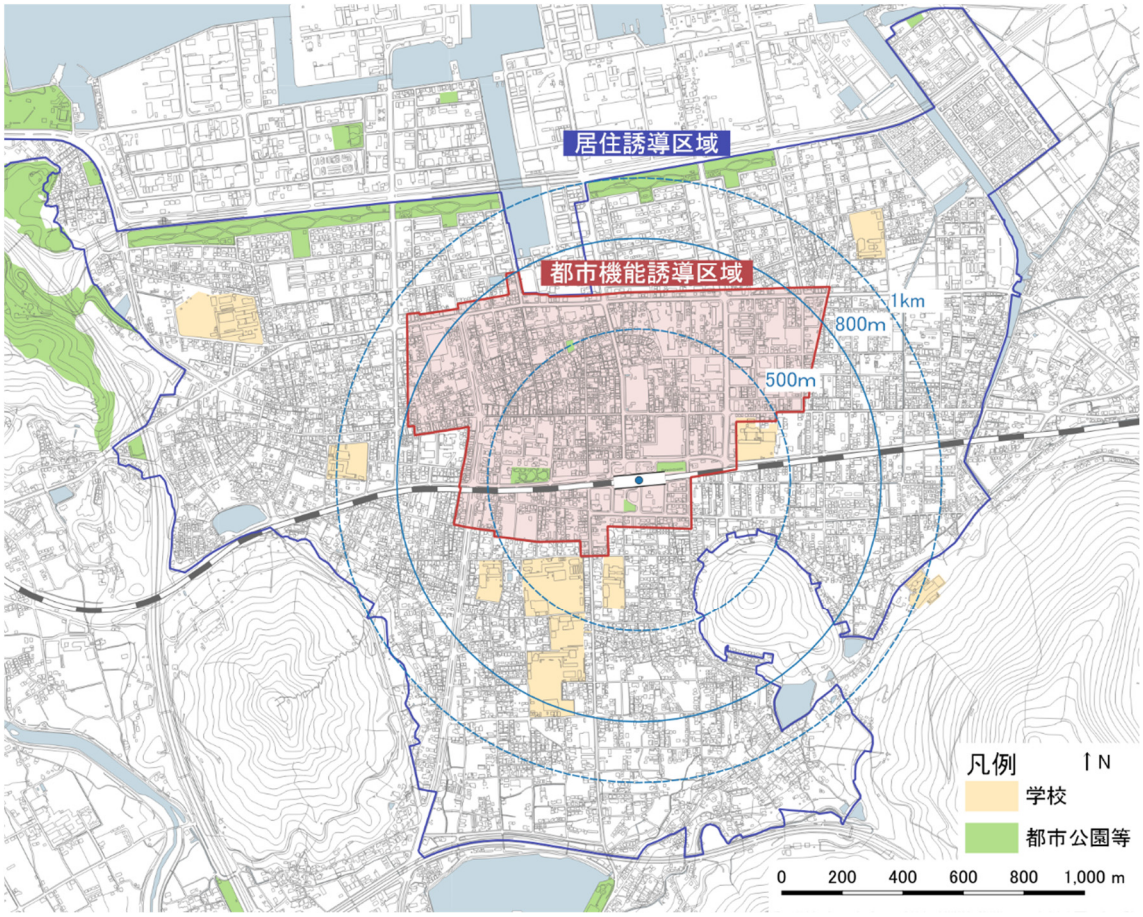
※1）立地適正化計画における鉄道駅の徒歩圏

※2）居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、「コンパクトシティ＋ネットワーク」の実現に向けたまちづくりの指針となる計画。

※3）立地適正化計画において定められている居住機能のほか都市機能の集積によって、まちなかの魅力の増進を図る、本市の中心的役割を担う区域。

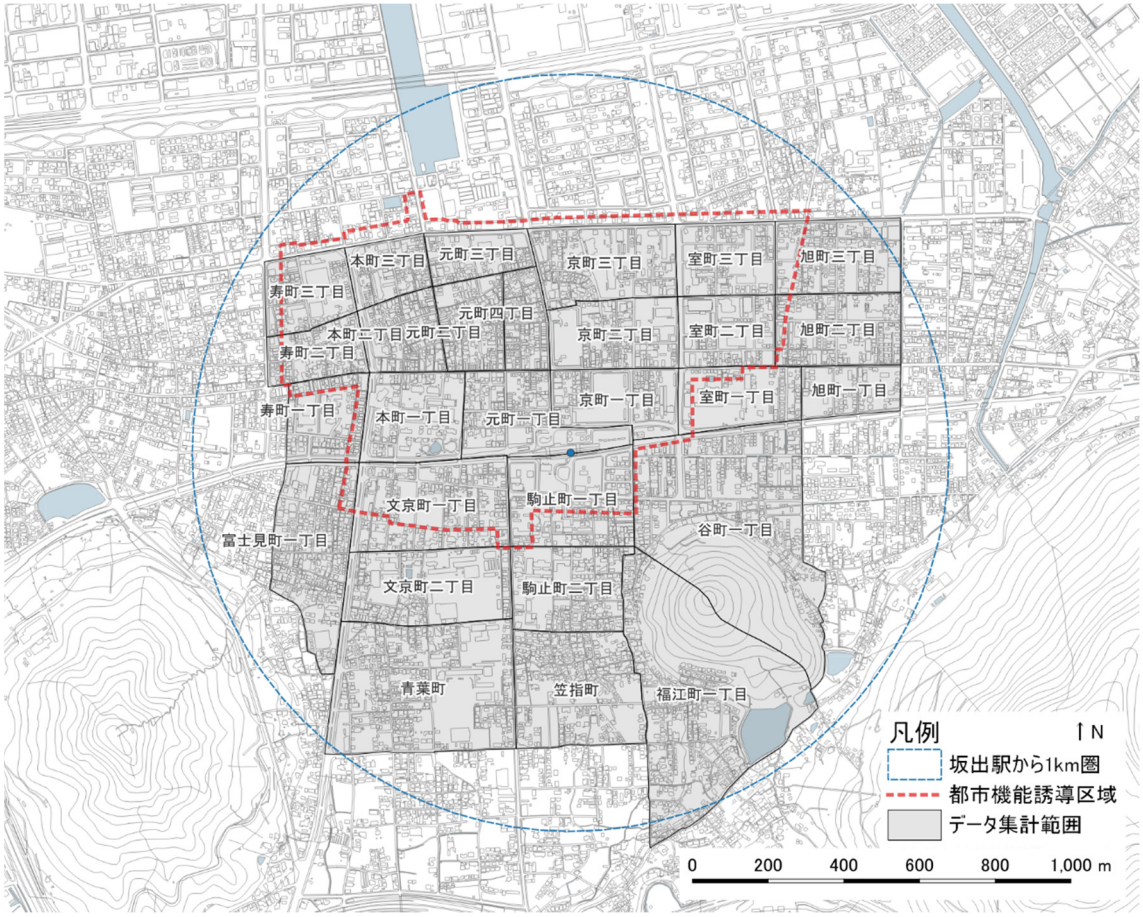
※4）高齢者を含めた一般的な徒歩圏

■検討区域



なお、人口等の数値集計においては、坂出駅から１㎞の範囲に概ね包含される下記の区域を対象に集計を行う。

■中心市街地におけるデータ集計範囲



2．坂出駅を中心とする中心市街地におけるまちづくりの検討

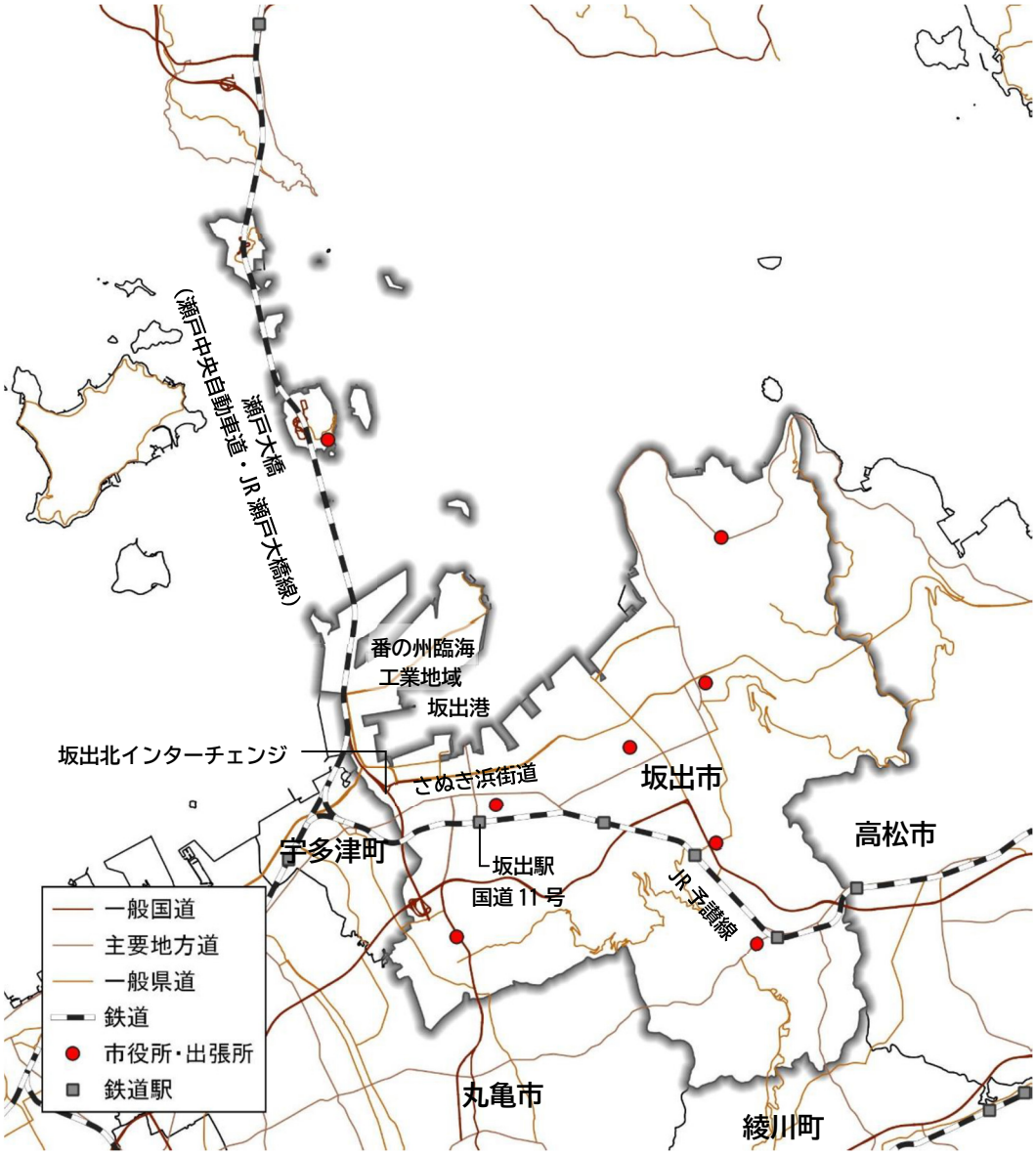
2－1. 現況

（1）地勢

＜地理的環境＞

- 本市は香川県のほぼ中央に位置し、東は高松市、西は丸亀市・宇多津町、南は綾川町に接しており、北には多島美を誇る瀬戸内海が位置している。市域は東西 14.65km、南北 18.20km、総面積 92.49km^2 を有し、海岸沿いの市街地と綾川沿いの田園地帯、これら平坦地を取り囲む山々などにより形成され、**豊かな自然環境に恵まれている。**
- 四国の物流拠点として重要港湾坂出港や、高速道路のインターチェンジを複数擁する高い交通利便性を魅力として、番の州臨海工業地域を始め、多くの企業が立地し、長年にわたり**「働くまち」**としての地位を獲得してきた。
- 瀬戸大橋の四国側の拠点であり、**本州と四国を結ぶ高速道路網の玄関口**となっている。
- 令和6年度には坂出北インターチェンジのフルインター化、さぬき浜街道の4車線化が完了予定である。

■坂出市の地勢



※坂出市地域交通計画掲載図を一部加筆修正

＜交通＞

概況

- 本市の公共交通は、JR予讃線、瀬戸大橋線の基幹交通軸に対して、中心部の**JR坂出駅を拠点**として、郊外部と中心部を結ぶ路線バスやデマンド型乗合タクシーと、中心部の主要施設を回る循環バスによる**地域公共交通ネットワークを形成**している。
- 平成31年3月に策定した都市計画マスタープランにおいては、公共交通体系の方針として、下記の方針を掲げている。
- 令和2年には、それまで2ルートであった循環バスに新たなルートとして、市中心部に立地する市役所や複数の病院などをコンパクトに循環する中ルートを設けている。

■交通体系の方針（公共交通等）

・高齢化社会における交通利便性の確保に向けて、ＪＲ予讃線の坂出駅を中心に路線バス、循環バス、デマンド型タクシーにより構築される公共交通ネットワークの維持・強化を図ります。

・ＪＲ坂出駅周辺の魅力増進に向けて交通利便性を更に高めるため、また、公共交通の維持に向けて利用を促進するため、駅前広場や周辺道路の整備による交通結節機能の強化を図るとともに、公共交通事業者と連携したサービス改善を図ります。

■公共交通等の方針図



出典）坂出市都市計画マスタープラン

鉄道

- 本市の鉄道は、四国を横断する予讃線と四国を縦断する土讃線、瀬戸内海を縦断する瀬戸大橋線により、**高松方面、松山方面、高知方面、岡山方面と連絡している。**
- 市内には、坂出駅、八十場駅、鴨川駅、讃岐府中駅の4駅が設けられている。
- JR坂出駅は、高松駅まで約15分、岡山駅まで約40分と利便性に優れており、周辺自治体居住者の主要な就業先となっていることや、坂出駅周辺に4つの高校が立地していることから、通勤・通学での利用者が多く、**乗降客数が JR 四国内で第4位**(8,408 人/日、令和3年度)となっており、路線バス、循環バス、高速バス、空港バス等の市内**交通インフラとの結節拠点**となっている。

■ＪＲ坂出駅乗降客数の推移

	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)
坂出駅	3,789,896 人	3,827,944 人	3,898,790 人	3,881,108 人	3,104,863 人
定期	2,491,996 人	2,543,682 人	2,585,458 人	2,612,824 人	2,434,706 人
定期割合	65.8%	66.5%	66.3%	67.3%	78.4%

出典）香川県統計資料（ＪＲ四国資料）

■ＪＲ四国乗降客数の順位（令和３年度・一日平均）

1	高　松（香川）	18,946 人	6	丸　亀（香川）	6,368 人
2	徳　島（徳島）	11,334 人	7	宇多津（香川）	3,756 人
3	松　山（愛媛）	9,758 人	8	今　治（愛媛）	3,510 人
4	坂　出（香川）	8,408 人	9	後　免（高知）	3,412 人
5	高　知（高知）	7,906 人	10	多度津（香川）	3,264 人

出典）ＪＲ四国公表データをもとに加工
※乗降客数＝乗車客数×２

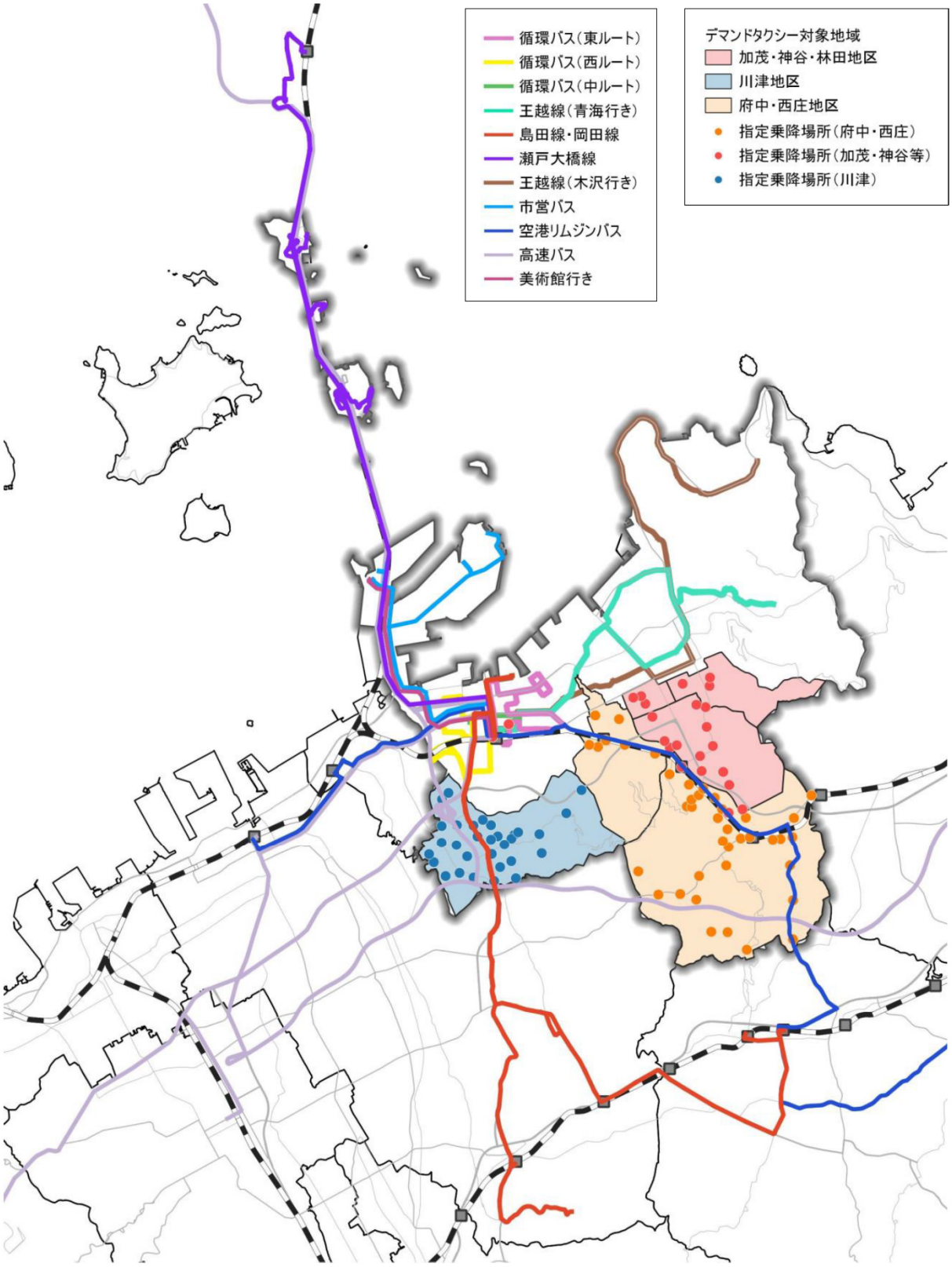
路線バス

- 坂出市中心部には、路線バス、循環バス、高速バス、空港バスが運行しており、これらのバスは、**坂出駅を発着する経路**となっている。

■バス路線一覧

種別	運営	路線数	運行方面
路線バス	市営（運行委託）	１路線	瀬居町
	琴参バス	４路線	王越町、青海町、琴電岡田駅、琴電綾川駅、JR 児島駅
循環バス	琴参バス	３路線	市内循環（東ルート、西ルート、中ルート）
高速バス	四国高速バス	３路線	東京、名古屋、福岡
空港バス	琴参バス	１路線	丸亀～高松空港の経由地

■地域交通体系図



出典）坂出市地域公共交通計画図より転載

■循環バス路線図



出典）市ホームページより転載

<u>デマンド型乗合タクシー</u>

- **JR坂出駅と市内3地区を結ぶ**デマンド型の乗合タクシーが運行している。
- 運行は予約制で、1日の運行回数は各地区4往復となっており、利用にあたっては利用者登録が必要である。

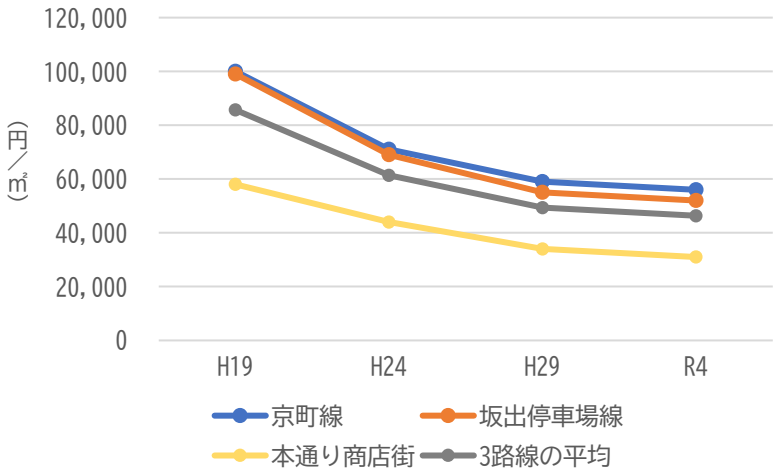
<u>乗合タクシー</u>

- 瀬戸大橋記念公園に隣接する「東山魁夷せとうち美術館」と**JR坂出駅を結ぶ**、乗合タクシーが、1日3往復運行している。

＜路線価の推移＞

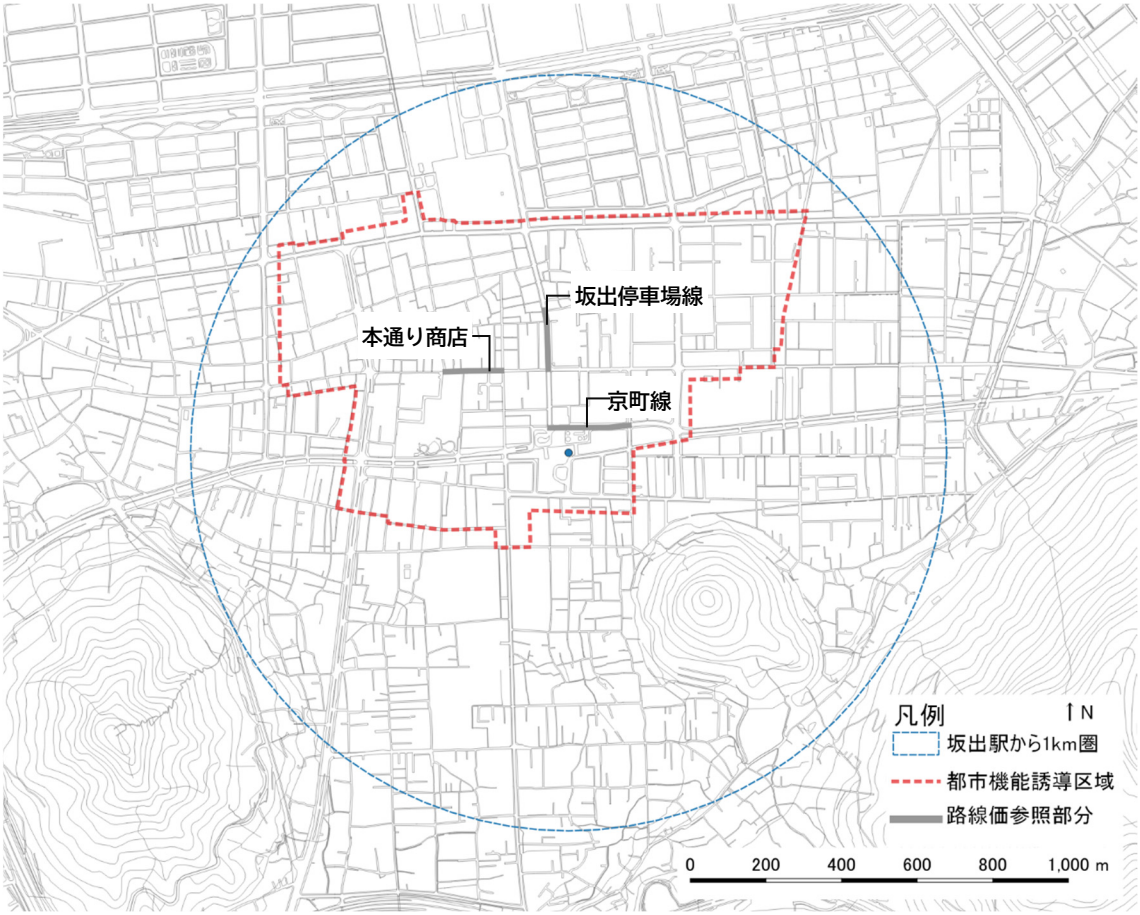
- 交通利便性に優れているにもかかわらず、**市内の路線価は下落傾向**にある。
- 中心市街地内の主な路線価は下落傾向が続いているものの、近年は下がり幅が減少しつつある。

■主な路線価（中心市街地内）



出典）国税庁資料をもとに作成

■路線価参照位置

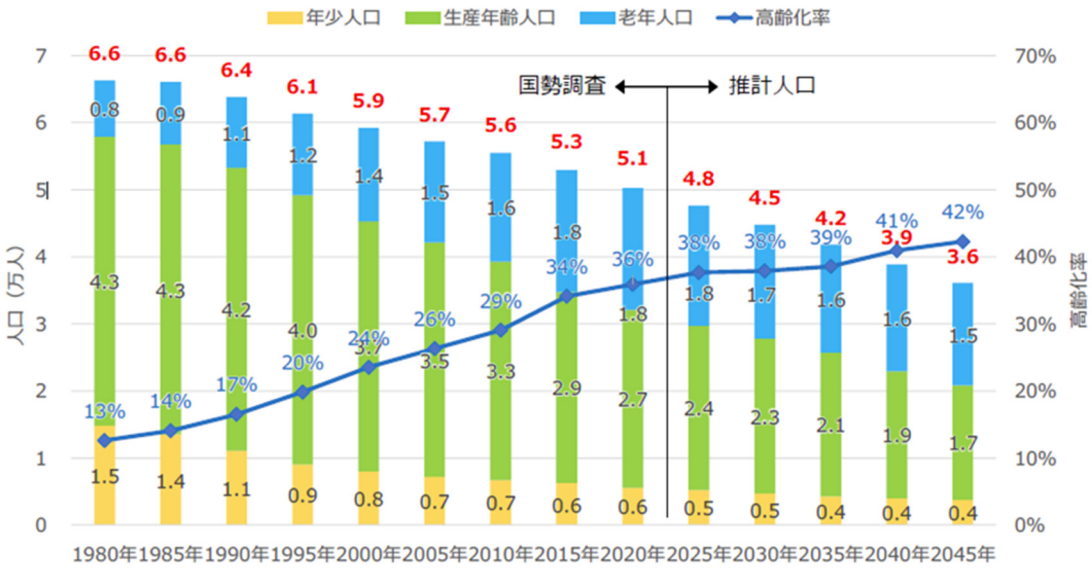


（2）人口

人口の推移

- 市全体の人口は昭和 52 年の 67,734 人(定住人口)をピークとして減少しており、令和 2 年には 50,624 人(国勢調査)となっている。今後も**人口減少は続く**と予想され、令和 27 年には 36,121 人(日本の地域別将来推計人口(平成 30 年 3 月推計))となることが推計されている。
- 年齢3階級別人口をみると、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65 歳以上)のいずれの人口も減少しているが、階級別人口割合では老年人口の割合が増加しており、令和27年の高齢化率は42%になることが推計されている。
- 生産年齢人口の割合が全国、県下のいずれに対しても低く、市内における**働く世代の減少**が顕著となっている。

■坂出市における人口の推移と推計

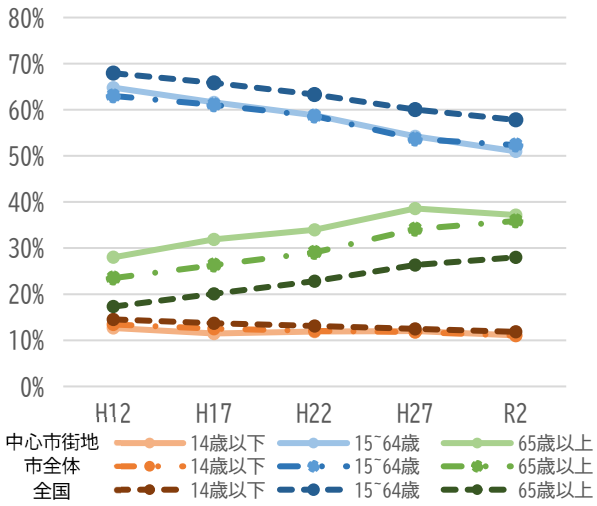


出典）令和 2 年まで：国勢調査

令和 2 年以降：日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所 H30.3）

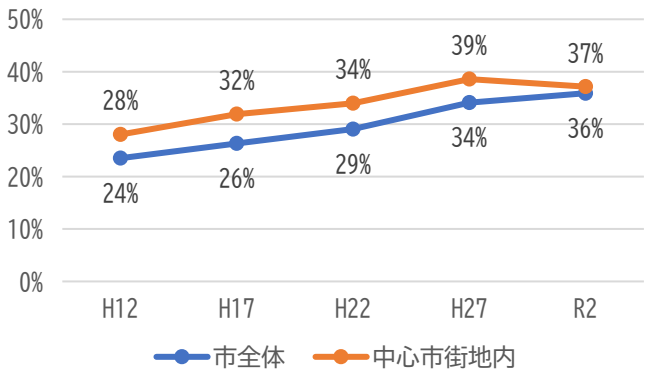
※坂出市地域公共交通計画掲載図を一部修正

■全国と市全体の 3 階級別人口の推移



出典）国勢調査(R2)をもとに作成

■高齢化率の推移

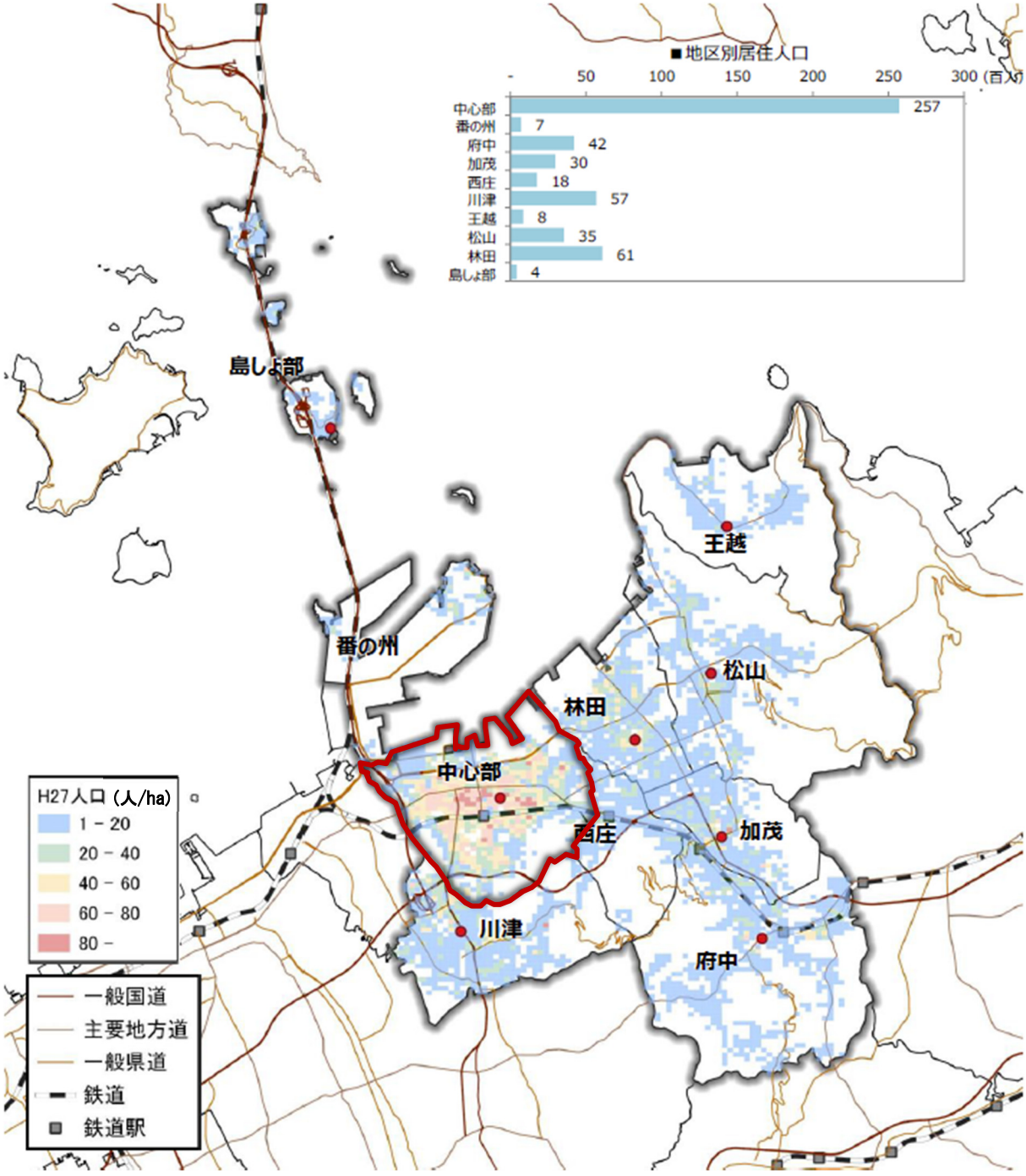


出典）国勢調査(R2)をもとに作成

人口の分布

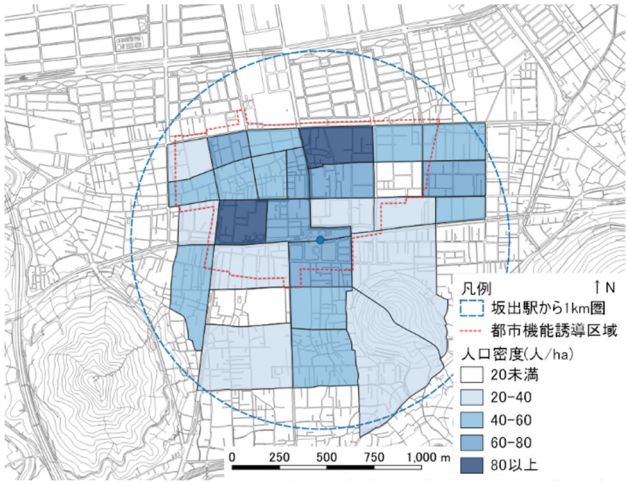
- 中心部には、坂出駅を中心として**坂出市の人口の約5割にあたる約 2.6 万人が集中**している。
- 中心市街地を見ると、坂出駅北側に人口密度の高いエリアが見られ、多くの人が居住している。
- 坂出駅の西側や南側で高齢化率が高いエリアがみられる一方で、**坂出駅北側は比較的高齢化率が低く**なっている。
- JR坂出駅周辺では、近年、高層マンション等の新規供給も増加しており、**共同住宅に居住する世帯数比率が増加**している。

■居住人口の分布



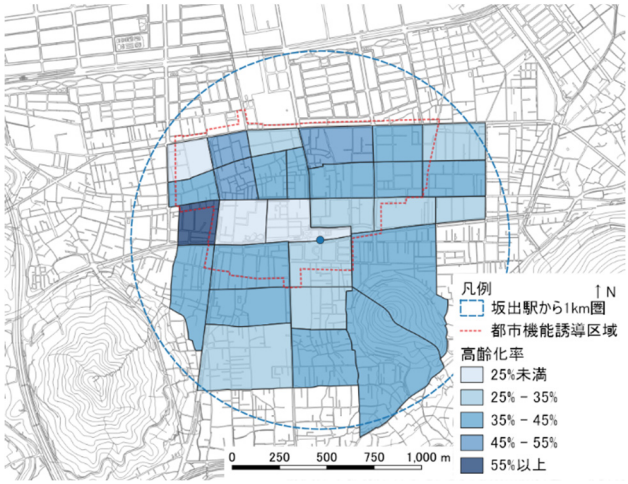
出典）メッシュ値：国勢調査（H27）
地区別居住人口：住民基本台帳（R3.4）
※坂出市地域交通計画掲載図を一部加筆

■中心市街地内の居住人口の分布



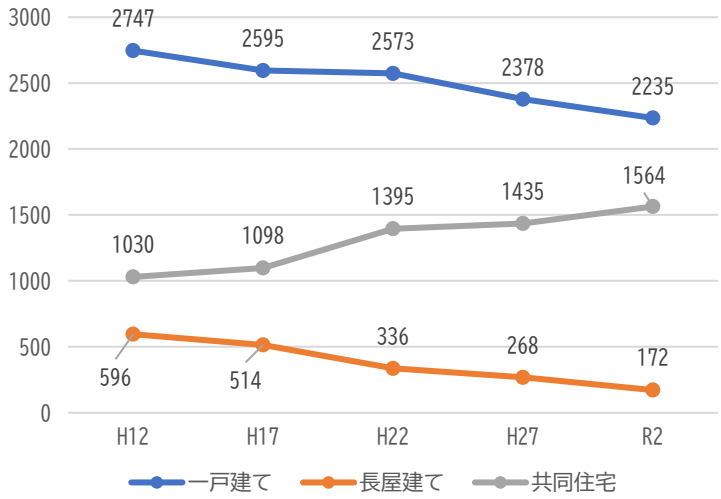
出典）国勢調査(R2)をもとに作成

■高齢化率の分布(中心市街地内)



出典）国勢調査(R2)をもとに作成

■住宅の建て方別世帯数(中心市街地内)



出典）国勢調査(R2)をもとに作成

昼夜間人口

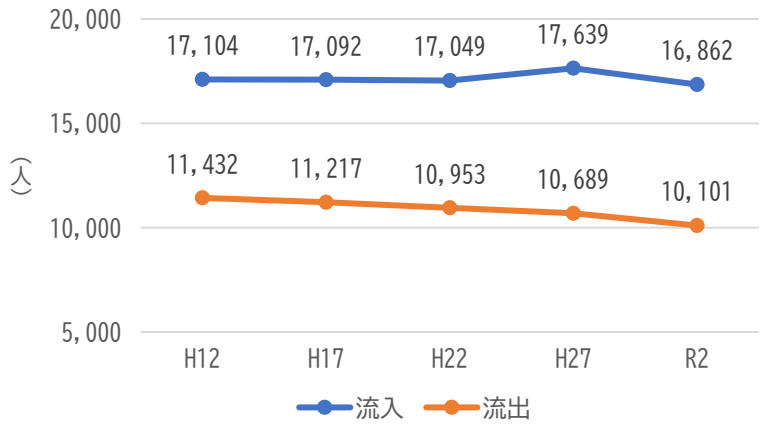
- **昼夜間人口比率**（夜間人口100人当たりの昼間人口）は、**四国内で高い水準**であり、市外から多くの人が働きに来る傾向が見られ、**「働くまち」のイメージ**を強めている。
- 流入・流出人口の推移を見ると、市内の人口減少に伴い、流出人口は減少する中、流入人口は1.7万人前後を維持し続けていることから、**勤務地としてのニーズ**に変化が無いことが分かる。
- **他の自治体からの通勤による流入が流出より多く**、特に丸亀市からの通勤は、丸亀市への通勤の2倍以上の流動があり、本市は周辺自治体居住者の主要な就業先となっているものの、**居住地として選ばれていない。**
- 中心市街地には**4つの高校が立地**し、JR坂出駅南側には、高校をはじめ、大学附属小学校・中学校など教育施設が集積しており、**他の自治体からの通学による流入が流出より多く**なっている。特に丸亀市、宇多津町からの通学が多い。

■市全体の昼夜間人口（R2）

流入人口（人）	流出人口（人）	夜間人口（人）	昼間人口（人）	昼夜間人口比率（%）
16,862	10,101	50,624	57,385	113.4

出典）国勢調査をもとに作成

■市全体の流入・流出人口の推移



出典）国勢調査をもとに作成

■周辺市町等への流入・流出状況（R2）［単位：人］

	流入			流出			
	通勤	通学	総数（①）	通勤	通学	総数（②）	総数の差（①-②）
総数	15,295	1,567	16,862	9,014	1,087	10,101	6,761
県内	14,787	1,537	16,324	8,805	954	9,759	6,565
高松市	4,073	269	4,342	3,595	308	3,903	439
綾川町	629	34	663	396	9	405	258
丸亀市	5,474	619	6,093	2,302	399	2,701	3,392
宇多津町	2,026	239	2,265	1,124	40	1,164	1,101
その他	2,585	376	2,961	1,388	198	1,586	1,375
県外	508	30	538	209	133	342	196
岡山県	192	18	210	187	102	289	-79
その他	316	12	328	22	31	53	275

出典）国勢調査をもとに作成

人口の転出入

- 10歳階級別の人口の転入・転出を見ると、進学、就職の時期である10～29歳の世代が県外への転出が多いことが分かる。また、**20～39歳においては県内全体について見ると転出が多くなっており、特に高松市への転出が顕著**である。
- 県外からの転入・転出について見ると、**30歳以上の世代から転入が転出を上回っている。**
- 子育て世代の動向が分かる0～9歳の転出入に着目すると、隣接市町では**高松市、宇多津町から多くの転入**が見られる。

■転入転出差(転入-転出)（H30～R3 年平均）[単位:人]

	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
総数	-86.0	7.0	-32.8	-72.8	-10.8	8.8	12.3	2.3
県内	-67.5	6.0	-8.0	-38.5	-21.5	-7.3	8.0	-6.3
高松市	-38.5	7.3	-2.0	-22.5	-10.8	-4.3	-0.5	-5.8
丸亀市	-16.8	1.0	-1.3	-5.5	-3.5	-2.3	0.3	-5.5
宇多津町	-1.5	11.5	1.5	-8.3	2.8	-2.3	-0.3	-6.5
綾川町	1.8	-2.0	2.0	3.0	-2.0	0.8	0.8	-0.8
その他市町	-12.5	-11.8	-8.3	-5.3	-8.0	0.8	7.8	12.3
県外	-18.5	1.0	-24.8	-34.3	10.8	16.0	4.3	8.5

■転入（H30～R3 年平均）[単位:人]

	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
総数	1601.0	170.8	93.5	556.8	337.0	188.3	117.3	137.5
県内	872.3	108.0	57.5	274.8	190.3	95.3	63.3	83.3
高松市	327.3	41.0	21.3	103.8	77.8	38.0	22.5	23.0
丸亀市	224.8	27.5	15.3	74.3	46.3	25.0	13.5	23.0
宇多津町	110.8	20.3	8.3	28.5	25.8	10.8	6.8	10.5
綾川町	29.5	3.3	3.5	8.3	6.3	3.3	2.5	2.5
その他市町	180.0	16.0	9.3	60.0	34.3	18.3	18.0	24.3
県外	728.8	62.8	36.0	282.0	146.8	93.0	54.0	54.3

■転出（H30～R3 年平均）[単位:人]

	総数	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
総数	1687.0	163.8	126.3	629.5	347.8	179.5	105.0	135.3
県内	939.8	102.0	65.5	313.3	211.8	102.5	55.3	89.5
高松市	365.8	33.8	23.3	126.3	88.5	42.3	23.0	28.8
丸亀市	241.5	26.5	16.5	79.8	49.8	27.3	13.3	28.5
宇多津町	112.3	8.8	6.8	36.8	23.0	13.0	7.0	17.0
綾川町	27.8	5.3	1.5	5.3	8.3	2.5	1.8	3.3
その他市町	192.5	27.8	17.5	65.3	42.3	17.5	10.3	12.0
県外	747.3	61.8	60.8	316.3	136.0	77.0	49.8	45.8

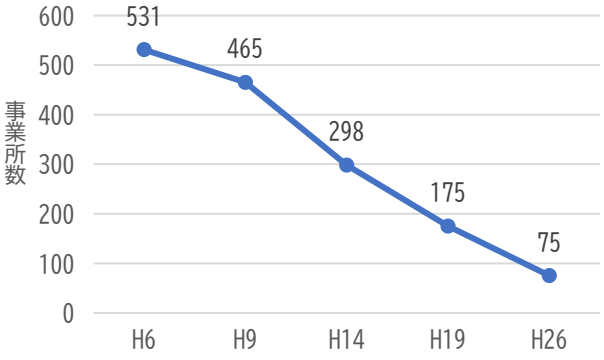
出典）上表全て住民基本台帳人口移動報告をもとに作成

（3）経済

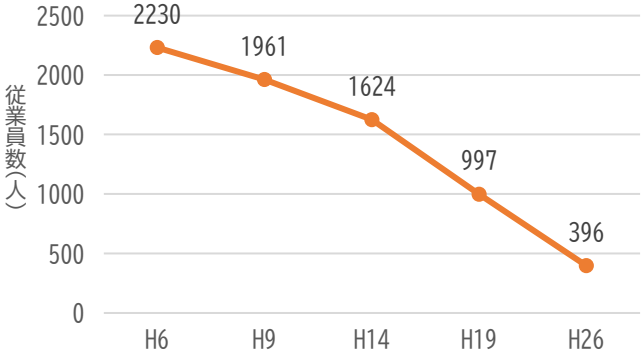
近年の動向

- 中心市街地内の商業集積地の事業所数、従業員数は大幅な減少傾向にあり（平成 6 年に比べ、平成 26 年は事業所数が 87%、従業員数が 82%減少）、商店街等の**商業集積機能の低下**が進んでいる。
- 西運河周辺においては、近隣にある工場の閉鎖が発表されるなど、近年は、経済の構造変化や景気低迷を受けた市内の**大企業の規模縮小・撤退**がみられる。
- 令和6年度に予定されている坂出北インターチェンジのフルインター化等を見据え、隣接する番の州臨海工業団地内の県分譲地では全ての区画において**新たな企業の立地**が決定している。

■商業集積地における小売業事業所数



■商業集積地における従業員数



出典）経済産業省「商業統計」をもとに作成

商店街等におけるにぎわいづくりの取組

- 商店街においては、かつてはにぎわいを見せていたが、**空き店舗や空き地が増加している。**
- 中心市街地においては新しい店舗の出店や元気な老舗もあり、商店街では「坂出市商店街第4土曜デー」、駅前広場では坂出商工会議所青年部楽市楽座実行委員会が主催する「さかいで楽市楽座」など、**活性化に向けたイベントなどの取組**も見られる。

■第４土曜デー



■楽市楽座



瀬戸内国際芸術祭等

- 平成22年から瀬戸内海の島しょ部を会場として3年毎に開催され、数多くの来場者でにぎわっている「瀬戸内国際芸術祭」の会場の一つとして、沙弥島が平成25年から加わっている。
- 東山魁夷せとうち美術館の整備や瀬戸内国際芸術祭など、**アートをキーワードとした坂出の認知度も向上**している。
- 平成25年から瀬戸内国際芸術祭の会場となった沙弥島会場における来場者数は 77,693 人(平成25年)、58,766 人(平成28年)、72,459 人(令和元年)となっている。なお、沙弥島は春会期のみの参加となっている。
- 令和元年からは、番の州埋立地でつながる瀬居島を会場とした、「瀬居島アートプロジェクト」が関連事業として開催されている。

■瀬戸内国際芸術祭



■瀬居島アートプロジェクト



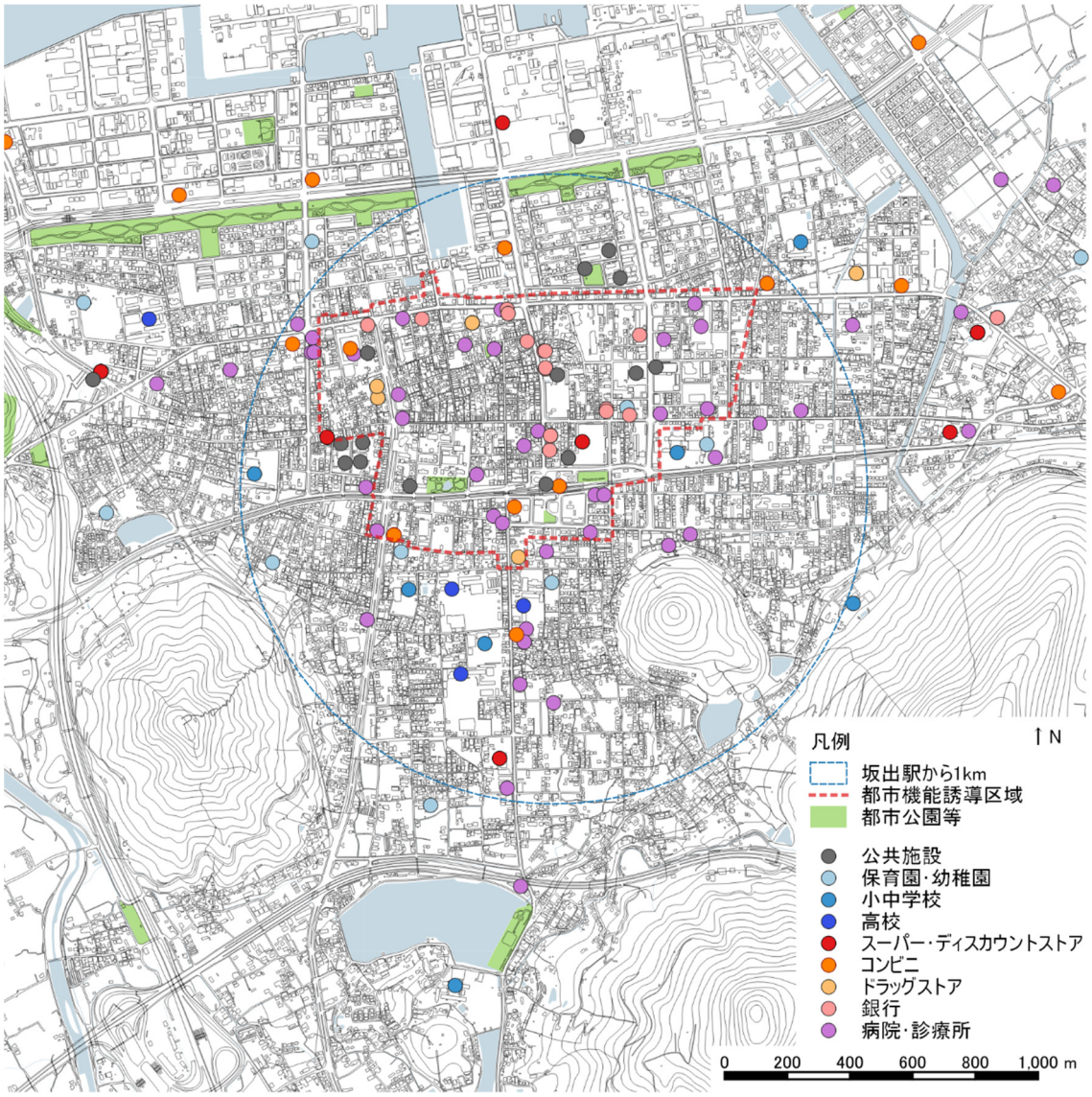
■瀬戸内国際芸術祭（沙弥島）



（４）都市機能

- 公共施設（市役所、市民ホール、図書館等）、銀行、郵便局、事業所、工場、商店街等はJR坂出駅の北側に、**住宅や学校はJR坂出駅の南側に集積**している。
- 学校施設の再編等、公共施設の再編計画が進められており、**施設の統廃合や多機能化、複合化による最適化が必要**である。
- **民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を活用**し、市民サービスの向上や財政負担の軽減をめざした**公民連携**による施設の整備や維持管理、運営に取り組む必要がある。

■中心市街地周辺の都市機能配置



＜都市公園等＞

- 市内には24箇所、面積にして62.73ヘクタールの都市公園が存在し、市民一人当たりの面積は 12.39 ㎡/人と全国平均(10.24 ㎡/人)を上回っている。
- 一方で居住誘導区域においては、市民一人当たりの面積が 6.10 ㎡/人と国土交通省の都市公園の整備水準である都市計画区域 16.07 ㎡/人、市街化区域 10.12 ㎡/人、人口集中地区(DID)7.44 ㎡/人のいずれの水準も下回っており、市民の憩いの空間が少ない現状である(整備水準は令和 3 年、人口規模 10 万人以下の値)。また、その大部分を坂出緩衝緑地(東大浜緑地、西大浜緑地)が占めている。
- **既存公園の有効な活用**を含めて、子育て世代をはじめとする多様な世代が日常的に集い交流し、**幸せを実感できるような居場所づくり**が求められている。

■市内おける都市公園の一覧

	公園名	種別	面積(ha)
市管理	聖通寺山公園	風致公園	12.00
	香風園	街区公園	0.57
	鉄砲町児童公園	〃	0.10
	御供所公園	〃	0.35
	鎌田池公園	〃	0.62
	西庄児童公園	〃	0.17
	西原公園	〃	0.16
	東大浜第１公園	〃	0.20
	東大浜第２公園	〃	0.40
	東大浜第３公園	〃	0.20
	西大浜第１公園	〃	0.85
	西大浜第２公園	〃	0.32
	西大浜第３公園	〃	0.51
	西大浜第４公園	〃	0.21
	西大浜第５公園	〃	0.22
	平成公園	〃	0.19
	田尾坂公園	緩衝緑地	0.71
	下川津緑地公園	〃	1.03
	沙弥島緑地	都市緑地	0.44
	林田与北緑地	〃	0.14
	市民広場	広場公園	0.27
	坂出駅南口公園	〃	0.11
県管理	瀬戸大橋記念公園	総合公園	22.48
	坂出緩衝緑地	緩衝緑地	20.48
	内訳（東大浜緑地）		3.00
	（西大浜緑地）		5.23
	（番の州公園）		12.25
	合計		62.73

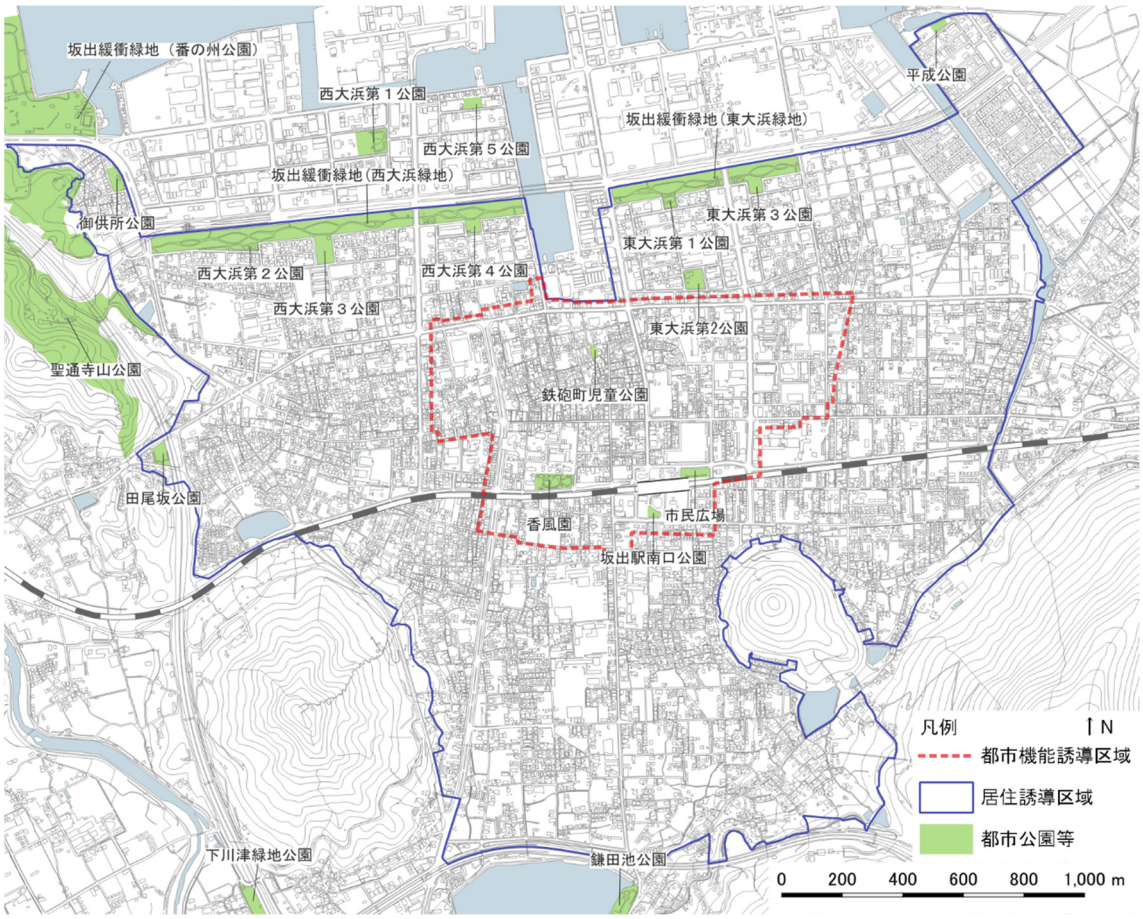
※網掛けは居住誘導区域内に位置する公園

出典）市管理：坂出市統計書(R4)

県管理：香川県「都市公園一覧表(H30)」

全国：国土交通省「令和２年度末種別毎都市公園等整備現況」

■居住誘導区域周辺の都市公園等



＜市民利用が主となる公共施設（貸館施設を除く）の現況＞

文化・教育施設

- 大橋記念図書館は**中心市街地内で多くの人が訪れる**公共施設であるが、築43年が経過し、**老朽化が進んでいる。**坂出駅から徒歩 12 分程の場所に位置しているが、アンケートでは**アクセスのしにくさを挙げる人が他の施設より多い傾向**があった。
- 坂出人工土地に併設している市民ホールは常設702席のホールを有し、令和 4 年 2 月に**リニューアルオープン**し、活用が期待されている。
- 市民美術館では企画展と貸館展合わせて年間十数展の展覧会を開催しており、**市民が気軽に芸術に触れ、発表できる場**を提供している。
- 郷土資料館は**大正時代建設の校舎を活用**し、農機具や塩田道具等の民俗資料を展示している。
- かもめの広場は**高校生に自習や発表、情報交換、交流の場を提供**することを目的に令和 3 年にオープンし、**高校生自らが施設運営等について考える取組**がおこなわれており、施設内では**市民の作品展示や鑑賞のためのギャラリースペース**が設けられている。
- 香風園は明治時代に市内の旧家の別邸として築庭され、現在は市指定文化財に指定されている。庭園をライトアップし、演奏会等をおこなう**観月会は多くの人を集めている。**敷地内には喫茶機能が設けられており、抹茶や甘酒を提供している。

支援・サービス施設

- 地域子育て支援拠点（わはは・ひろば坂出）、坂出子育てふれあいセンター（みどり保育園内）、きんか子育てふれあい教室（きんかこども園内）では委託先の NPO により**助産師相談や季節のイベントを開催**している。
- 保健センターでは**乳幼児健診等の母子保健事業や集団検診等の成人・老人保健事業等を提供**している。
- Saka-Biz は全国各地の自治体で設置されている**「Biz」をモデルとした四国初のビジネスサポートセンター**であり、業種を問わず、経営相談等をおこなっている。

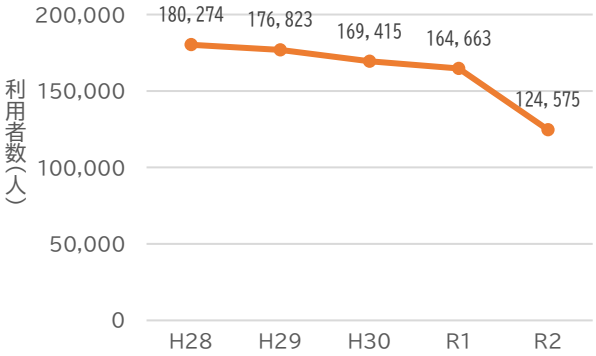
情報発信施設

- 観光案内所は坂出駅構内に設けられ、**観光案内やレンタサイクルのサービス提供**をおこなっている。

運動施設

- 市立体育館は大小 2 つのアリーナを有し、その他にトレーニング室や会議室を備える。
- 坂出市民武道場は柔剣道場各 1 面を有し、公園に隣接している。

■大橋記念図書館の利用者数

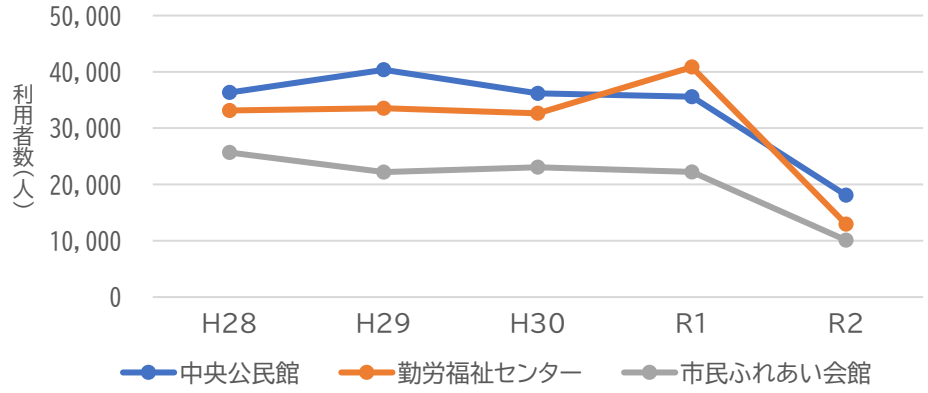


＜貸館施設・機能の現況と利用状況＞

貸館施設（中央公民館、勤労福祉センター、市民ふれあい会館）

- 中央公民館は、**駅前大型店舗の一部を賃借**しており、今後のあり方について検討が必要。
- 勤労福祉センターは築45年が経過し、**施設の老朽化**が進んでいる。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響があった令和2年度を除くと、**各施設ともに利用者数は横ばい若しくは若干の減少傾向**となっている。
  ※令和元年度の勤労福祉センターの利用者が前年に比べ大幅に増加しているが、市民ホールが改修工事により利用できなかったことから、一部利用者が勤労福祉センターを利用したと考えられる。
- アンケートでは3施設ともに**多くの人が「利用したことがない」と回答**しており、より**多くの人に利用してもらえる環境や仕掛け**が望まれる。
- 貸館施設および文化・教育施設の一部に貸館機能が設けられており、一定の利用者数は存在するものの、**貸館の用途により利用数の差**がみられ、今後、集約化等により、**機能の最適化**が望まれる。

■各施設における利用者数

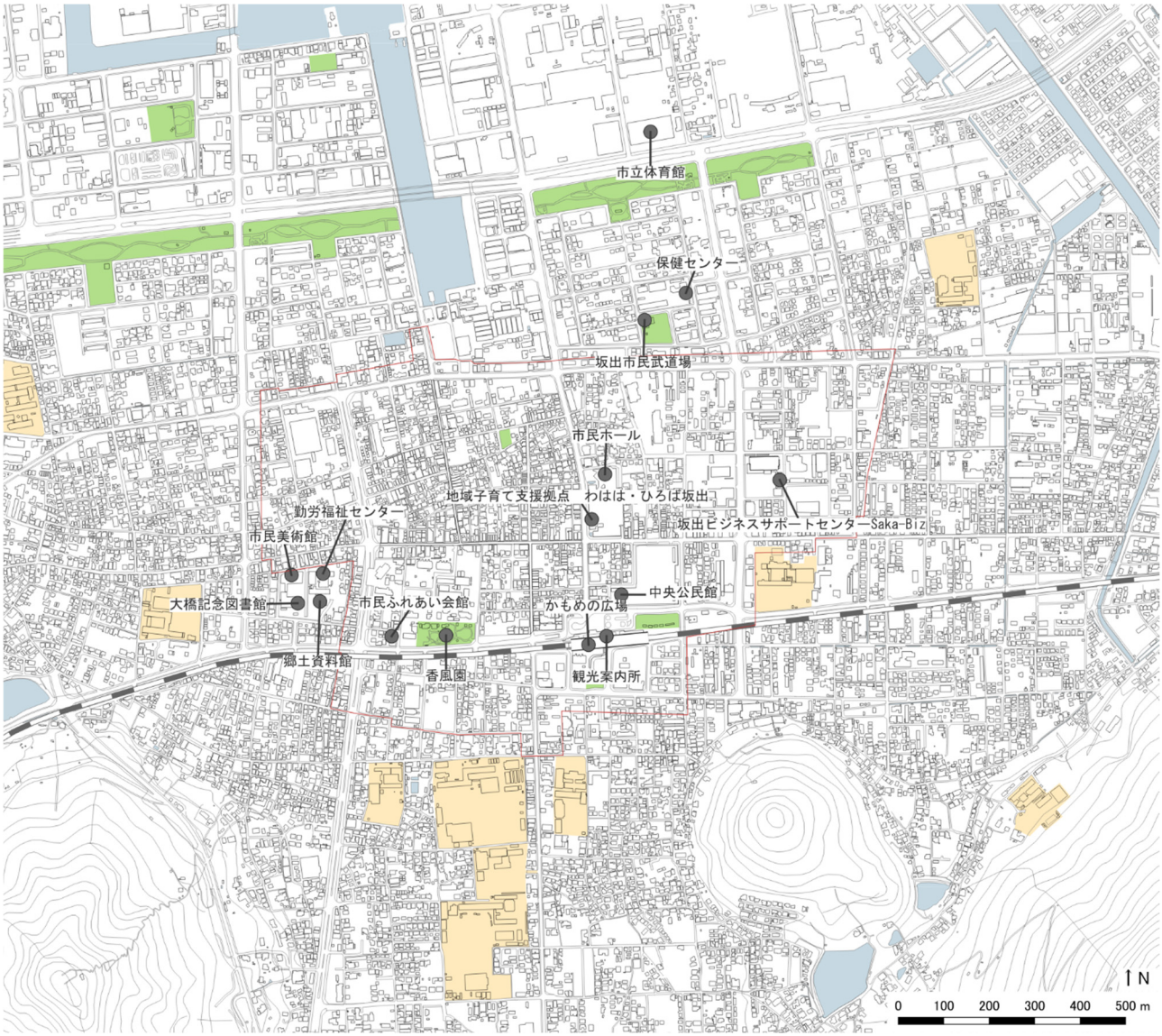


■各施設の貸館機能

	小	中		大
	39㎡以下	40～59㎡	60～89㎡	90㎡以上
中央公民館		和室（44・50）×2	講習室 （71～74）×3 音楽室（73）×4 調理室（66）	多目的ホール（773）
勤労福祉センター	講習室（24）×2 軽運動室（24） 和室（19）×2		会議室（65）	大ホール（192） 展示ホール（105） 研修室（96） 割烹室（92）
市民ふれあい会館				多目的ホール（187） 板の間（227） 畳の間（227）
市民美術館	研修室（30）	会議室（50）		展示室×3 （140～153）

※カッコ内は室面積（㎡）

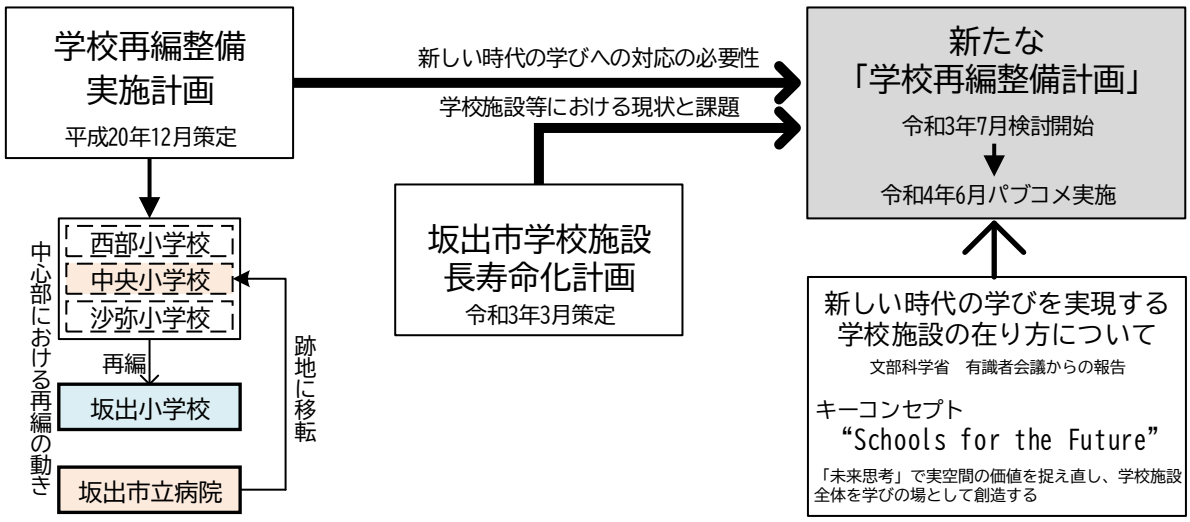
■市民利用が主となる公共施設の配置



分類	名称	延床面積（㎡）	建設年	築年数	備考
文化・教育施設	大橋記念図書館	2,235.00	1979	43	
	市民ホール	2,328.00	1974	48	
	市民美術館	1,067.44	1985	37	
	郷土資料館	540.00	1920	102	市指定文化財(建造物)
	かもめの広場	149.70	－	－	JR 高架下区画を借用
貸館施設	中央公民館	1,632.50	－	－	駅前の大型店舗内の区画を借用
	市民ふれあい会館	1,633.56	1998	24	
	勤労福祉センター	1,278.79	1977	45	
支援・サービス施設	地域子育て支援拠点　わはは・ひろば坂出	114.20	－	－	坂出人工土地１階
	坂出ビジネスサポートセンターSaka-Biz	220.00	1999	23	
	保健センター	152.33	1981	41	医師会館の１階一部を借用
運動施設	市立体育館	6,855.36	1982	40	
	坂出市民武道場	339.94	2000	22	
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ施設	香風園	519.66	1909	113	市指定文化財（名勝）
情報発信施設	観光案内所	－	－	－	坂出駅内

＜**学校再編**＞

- 本市教育委員会は、平成20年12月に「学校再編整備実施計画」を策定し、適正規模を大きく下回る小学校の再編が行われているが、計画期間中の**児童・生徒数の減少が当初の想定より緩やかだった**こともあり、計画を尊重しつつも、後期計画、将来構想ともに関係者へのヒアリングを実施し、現状維持となっていた。
- **校舎の多くは改築時期が迫っており**、令和2年度に策定した「坂出市学校施設長寿命化計画」によると、文部科学省が推奨する「長寿命化型」による整備方法により試算を行った場合、今後40年間の維持・更新コストは約491億円必要であるとの試算が示されている。
- 教育委員会は、本市の適正な学校規模のあり方を研究し、学校再編と教育環境の整備を図るため、令和3年度から新たな「学校再編整備計画」の策定を進めている。
- 学校再編整備実施計画を受け、中心市街地では、「西部小学校」と「中央小学校」および「沙弥小学校」の再編により、平成24年4月に坂出小学校校舎の新築が行われ、平成26年12月には、再編後の「中央小学校」の跡地に市立病院が移転しており、旧市立病院跡地は現在空地になっている。

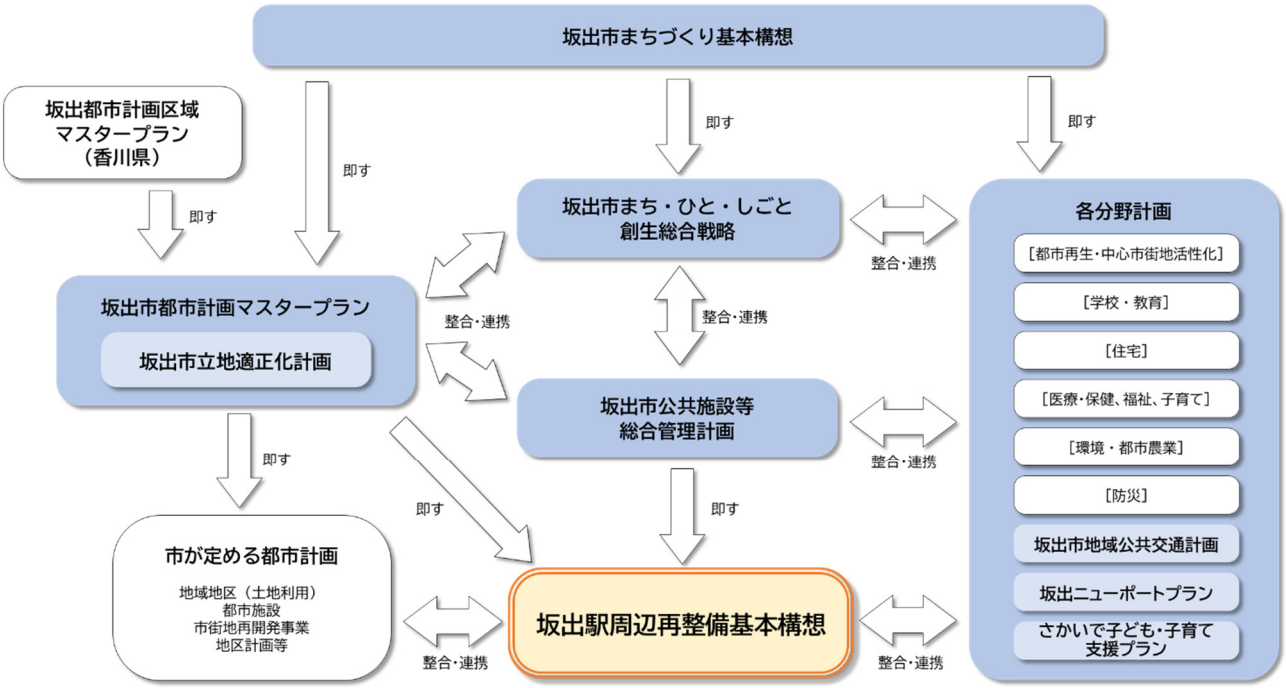


2－2. 中心市街地再生に向けた上位関連計画の整理

坂出駅周辺再整備基本構想は、本市の最上位計画である「坂出市まちづくり基本構想」および本市の人口減少対策に係る計画である「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、都市計画に関する基本的な方針を示した「坂出市都市計画マスタープラン」、今後のまちづくりの指針を示した「坂出市立地適正化計画」、公共施設等の最適なあり方を示す「公共施設等総合管理計画」を上位計画と位置づけ、「坂出市地域公共交通計画」や「坂出ニューポートプラン」と連携し、計画の整合を図る。

さらには、中心市街地の活性化、医療・保健、福祉、子育てなど様々な分野と連携し、計画の整合性を図ることで、本構想の推進によって期待される効果を一層発現させる。

■坂出駅周辺再整備基本構想の位置づけ



（1）上位計画

本構想を検討する上で、その前提となる上位計画として、以下の計画における基本的な考え方を整理する。

坂出市まちづくり基本構想	**策定/改訂：**平成 28 年 3 月
計画の概要 総合的かつ計画的な市政運営を行うために市政の長期ビジョンを示すものであり、市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、計画的な市政を推進するための重要な指針、市の政策体系上の市政の各分野にわたる諸計画の最上位の方針となるもの。	
計画におけるまちづくりの考え方 **「働きたい 住みたい 子育てしたい 共働のまち さかいで」**という、めざすべきまちづくりの将来像が定められている。	

坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略＜第2期＞	**策定/改訂：**令和 4 年 11 月
計画の概要 実効性のある地方創生の取組を進めるために、市の人口動向や産業実態等を踏まえ、政策目標・施策を示すもの。	
計画におけるまちづくりの考え方 **「活力と交流のある、住みたいまちづくり」「子育て世代に選ばれるまちづくり」「安心で暮らしやすい、持続可能なまちづくり」**が基本目標に定められている。	

坂出市都市計画マスタープラン	**策定/改訂：**平成 31 年 3 月
計画の概要 市の都市計画に関する基本的な方針であり、長期的な展望に立ったまちづくりの将来像を定め、その実現に向けた土地利用や都市施設などの都市計画に関する基本的な方針を定める。	
計画におけるまちづくりの考え方 中心地域のめざすべき地域の姿として**「にぎわいと暮らしと活力が融和した魅力ある地域づくり」**を進めるとしており、**「求心力の高い都市拠点の創造」**や**「安全・安心・快適なまちなか居住の促進」**が方針として位置づけられている。	

坂出市立地適正化計画	**策定/改訂：**平成 31 年 3 月
計画の概要 都市計画法を中心とした従来の土地利用に加え、これまで都市計画では明確に位置づけられていなかった各種の都市機能に着目し、その魅力を活かすことにより「コンパクトシティ＋ネットワーク」の実現に向けたまちづくりの指針となる計画。	
計画におけるまちづくりの考え方 **「強みを活かしたまちなかの魅力づくり」「まちなかの環境改善による居住の推進」「公共交通によるまちなかと各地域の連携強化」**が方針として位置づけられている。	

坂出市公共施設等総合管理計画	策定/改訂：平成 28 年 12 月
計画の概要 公共施設等の全体の状況を把握し、また長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、長期的な視点をもって、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画。	
計画におけるまちづくりの考え方 基本目標として**「施設の総量抑制と多機能化・複合化の推進」「建物の構造的・機能的な長寿命化の推進」「地域の活動拠点・防災拠点としての公共施設の再生」「財政負担の軽減に向けた取組の推進」**が定められている。	

（2）関連計画

本構想を検討する上で、市全体および中心部のまちづくりにおいて、考慮および反映すべきと考えられる個別計画を整理する。

坂出市地域公共交通計画	策定/改訂：令和 4 年 11 月
計画の概要 まちの様子や市民の生活移動ニーズの変化に対応する、都市全体の生活利便性の向上に資する「持続可能な輸送サービス」の実現に向けて取り組むことを目的に策定する。	
計画におけるまちづくりの考え方 基本方針として**「まちづくりに対応した公共交通網整備と交通結節点の機能強化」「広域連携を含め生活移動ニーズに合った公共交通体系の構築」「将来にわたって維持可能な公共交通体系の構築」「多様な主体の参加、多様な主体との連携」「最新技術も活用した便利で利用しやすい公共交通」**が定められている。	

坂出ニューポートプラン	策定/改訂：令和元年 8 月
計画の概要 坂出港の競争力を向上させ、工業港としての魅力向上を推進するとともに、地域住民の憩いの場、クルーズ船等による観光客の交流の場として快適で利用しやすい港づくりを推進するために、坂出港の振興・発展に向けて取り組むべき方向性を取りまとめたもの。 ※四国地方整備局高松港湾・空港整備事務所と坂出市が共同策定	
計画におけるまちづくりの考え方 取組の方向性の一つである「坂出港が有する資源を活用した賑わい・交流拠点の創出」の中で「坂出市街地近傍の**西運河地区等のウォーターフロントにおいて、賑わい・交流拠点を形成するにあたり、市民がみなとを身近に感じ、憩うことができ、また、観光客等を呼び込むことが出来る空間の創出に官民が連携して取り組む**」と定められている。	

第 2 期さかいで子ども・子育て支援プラン	策定/改訂：令和 2 年 3 月
計画の概要 教育・保育および地域子育て支援事業を提供する体制の整備と子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境の整備に取り組むために子ども・子育て支援法第 61 条に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」として策定されたもの。	
計画におけるまちづくりの考え方 基本目標として**「幼児期の教育・保育及び地域における子育て支援の充実」「妊娠・出産期からの切れ目のない支援」「特別の配慮と支援が必要な子ども・家庭への取り組み」「仕事と生活の調和の促進」**が定められている。	

2－3. 市民意向調査

（1）アンケート調査

＜概要＞

一般アンケート、高校生アンケート

目的

市民のまちづくりに対する意識やニーズを把握し、坂出駅周辺再整備基本構想の基礎資料として活用するために、市民および高校生を対象にアンケートを行なった。

内容としては、市民と中心市街地との関わり方、中心市街地の魅力、中心市街地への期待、坂出駅周辺への期待等を把握することにより、再整備に向けた方向性や課題を明らかにすることを目的とする。

周知・回答方法

一般アンケート

全世代

対　象　者：全市民

回答方法⑴：ＷＥＢアンケート（ＱＲコード読み取り後、ＷＥＢにて回答）

回答方法⑵：記入式アンケート（市役所および各出張所において調査票を配布・回収）

周 知 方 法：広報誌の９月号にＱＲコードおよびＵＲＬを掲載するとともに、ホームページやＳＮＳ等の活用、市内イベントにおいてアンケートの案内を配布することで周知。

配　布　数：坂出駅前での配布（約 600）、坂出市商店街第 4 土曜デー（約 100）、まろっこパークに出店のキッチンカー（約 100）、香風園観月会（約 500）

子育て世代

回 答 方 法：ＷＥＢアンケート（ＱＲコード読み取り後、ＷＥＢにて回答）

周 知 方 法：各教育機関を通じてアンケートの案内を子育て世帯の保護者に周知。

配　布　数：市内保育所・こども園・幼稚園（約 1,700）、市内小学校（約 2,600）市内中学校（約 1,400）に通う児童および生徒の保護者

高校生アンケート

対　象　者　：市内高等学校の全生徒（約 2,000 人）、市外高等学校の生徒(約 2,800 人）

回 答 方 法：ＷＥＢアンケート（ＱＲコード読み取り後、ＷＥＢにて回答）

周 知 方 法：各学校を通じてアンケートの案内を生徒に周知。

調査期間

令和４年９月１日（木）～ 令和４年９月１６日（金）

回答数

一般アンケート	1,842 件	内訳　全世代：487 件、子育て世代：1,355 件
高校生アンケート	488 件	内訳　市内高校(市内居住：107 件、市外居住：161 件) 市外高校(市内居住：　54 件、市外居住：166 件)

就業者(市外居住者)アンケート

目的

居住地を選択する上で重視する点や理由を把握することで居住地として現在の坂出市がどのように評価されているかを明らかにし、坂出駅周辺再整備基本構想の基礎資料として活用するために、市内の事業所に勤務し市外に居住する人を対象にアンケートをおこなった。

周知・回答方法

対　象　者：市内の事業所に勤務し、市外に居住する人

回答方法⑴：ＷＥＢアンケート（ＱＲコード読み取り後、ＷＥＢにて回答）

回答方法⑵：記入式アンケート（事業所において調査票を配布・回収）

周 知 方 法： 各事業所において該当者に周知

調査期間

令和４年１０月１９日（水）～ 令和４年１０月２５日（火）

回答数

合計：308 件	内訳　番の州企業等：225 件 その他中小企業等：83 件

＜一般アンケート＞

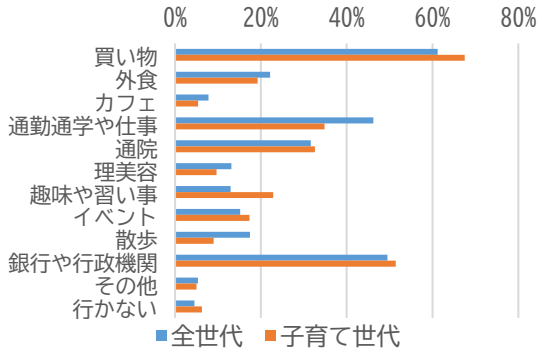
- いずれの世代も中心市街地を訪れる目的として買い物や銀行、行政機関、通勤、通学、通院で訪れる人が多い。子育て世代においては全世代に比べ趣味や習い事の割合が多く、散歩の割合が少ない。
- 訪れる交通手段としては**自動車が全世代では約6割と多数を占め、子育て世代に限ると約8.5割**となり、傾向は強くなる。全世代において徒歩は約 1 割、自転車が約２割を占める。
- 半数以上が週1回以上中心市街地を訪れているが、滞在時間が１時間未満の人が約半数を占め、**滞在時間が短い**ことが分かる。また、滞在時間は子育て世代の方が短い傾向がある。
- 中心市街地内の公共施設の中でも**大橋記念図書館は子育て世代では半数以上の人が1年以内に利用**している等、他の公共施設と比べ利用者が多いことが分かる。一方、利用しない人の理由としては**「車で行きにくい」が他の公共施設に比べ多い。**
- 貸室を中心とする公共施設(中央公民館、勤労福祉センター、市民ふれあい会館)については利用したことがない人が多い。利用しない理由としては「利用の必要性がない」「参加したいイベントがない」を挙げる人が多い。
- 中心市街地の現在の印象としては**病院やマンションなどの居住環境が充実している**と感じている人が多い。「お店が多く買い物が便利」「雰囲気の良い飲食店がある」「カフェなどの居心地の良い場所がある」「まちに活気がある」「子どもが遊べる場所が多い」については現状の評価は低いが、魅力向上のためには必要と感じている人が多い。**買い物利便性やにぎやかさ、居心地**が求められており、特に子育て世代においては**子どもが遊べる場所**が求められていることが分かる。
- 「どのような場所があれば行きたいと思うか」という問いに対しては坂出駅前については**買い物環境や雰囲気の良い飲食店**、坂出緩衝緑地については**居心地や雰囲気、景色等が良い場所や飲食店**を望む回答が多い。特に子育て世代においては、**いずれの場所でも子どもが遊べる場所**を望む回答が多い。

まとめ

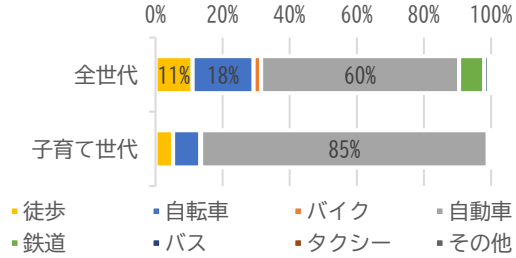
多くの市民が車により中心市街地にアクセスすることをふまえながら、**居心地の良い場所や子どもが遊べる場所の創出**等を進めることで**滞在時間を増加**させ、**にぎわいや活気につなげていく**必要がある。

※本アンケートは広く一般への周知に加え、市内の保育所等・小中学校の保護者へ回答を依頼している。前者を「全世代」、後者を「子育て世代」とし、分析、比較をおこなう。

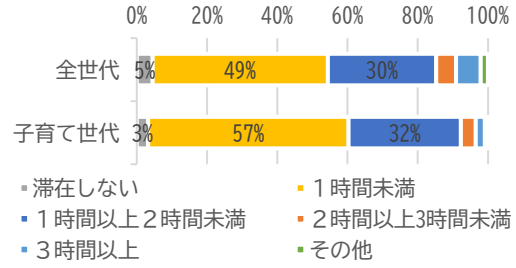
■中心市街地へのお出かけ目的



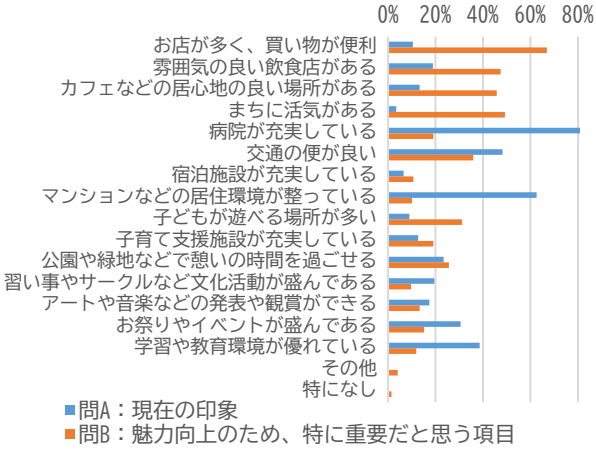
■中心市街地への主な交通手段



■中心市街地での平均滞在時間
（自宅・勤務地・学校での時間は除く）



■中心市街地の現在の印象と魅力向上のために重要だと思うこと(全世代)



＜高校生アンケート＞

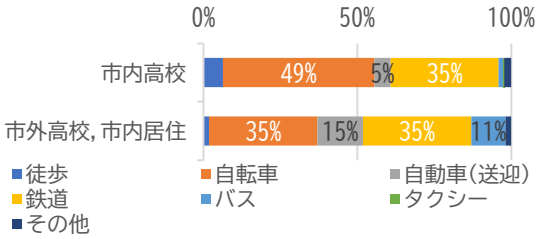
- 通学手段では**市内高校に通学する人の半数は自転車を利用**している。鉄道は市内高校通学者の約 3.5 割、市外高校の生徒で市内居住者の約 3.5 割が利用している等、**坂出駅の利用者が一定数存在**する。
- 市内高校通学で市外居住者、市外高校通学で市内居住者の**約 8 割が放課後を坂出市外で過ごす**と回答している。**市内高校通学で市内居住者においても約 3 割が市外で過ごす**ことが多いと回答している。
- 立ち寄りスポットにおける滞在時間は市内で過ごす人の約 5 割が 1 時間未満となる等、市内で過ごす人の滞在時間は市外で過ごす人に比べ短い。市内が市外に比べ、**放課後を過ごす場所として魅力が少ない**ことが伺える。
- 放課後の立ち寄りスポットとしてはコンビニが最も多い。市外高校通学の市内居住者は**「図書館」「カフェ」「娯楽施設」で過ごす人が多い**傾向がある。
- 大橋記念図書館は半数近くの人が利用したことがあると回答しており、中心市街地内の公共施設の中では**利用率が高い**が、利用しない理由として、**「徒歩や自転車で利用しにくい」**との回答が他の施設に比べ多い。
- 中心市街地の現在の印象として**病院やマンションなどの居住環境の充実、教育環境、交通利便性が優れている、**お祭りやイベントが盛んであると感じている人が多い。
- 「どのような場所があれば行きたいと思うか」という問いに対しては坂出駅前については買い物環境や**友達と気軽におしゃべりできる場所、居心地の良い場所**、坂出緩衝緑地については**居心地の良い場所や雰囲気の良い飲食施設**を望む回答が多い。

まとめ

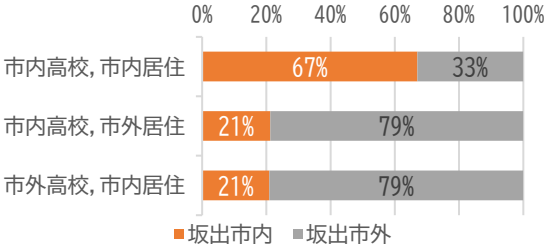
友達と気軽におしゃべりできる場や居心地の良い場所を創出することで、居住地の別に関わらず、**放課後を過ごす場所としての魅力を向上**させ、にぎわいや活力につなげていく必要がある。

※本アンケートは市内高校と近隣の市外高校へ回答を依頼したが、市外高校に通学し、市外に居住している人も含まれるため、基本的な集計はそれらを除いたものを用いる

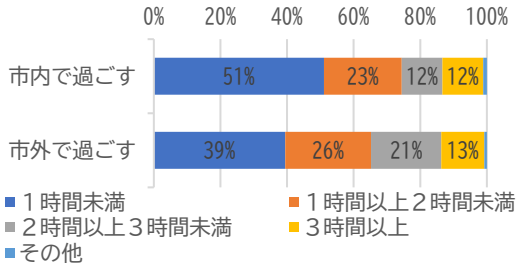
■高校への主な交通手段



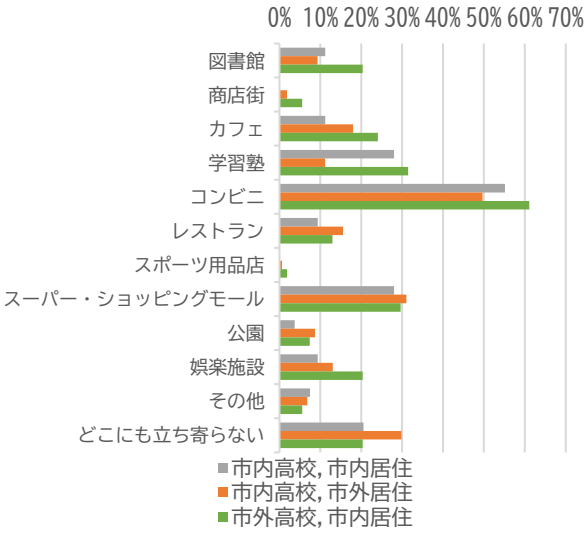
■放課後を過ごす場所



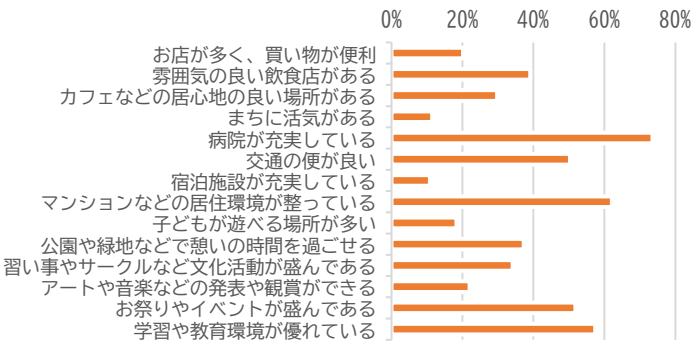
■放課後を過ごす場所別の滞在時間



■放課後の立ち寄りスポット



■中心市街地の現在の印象



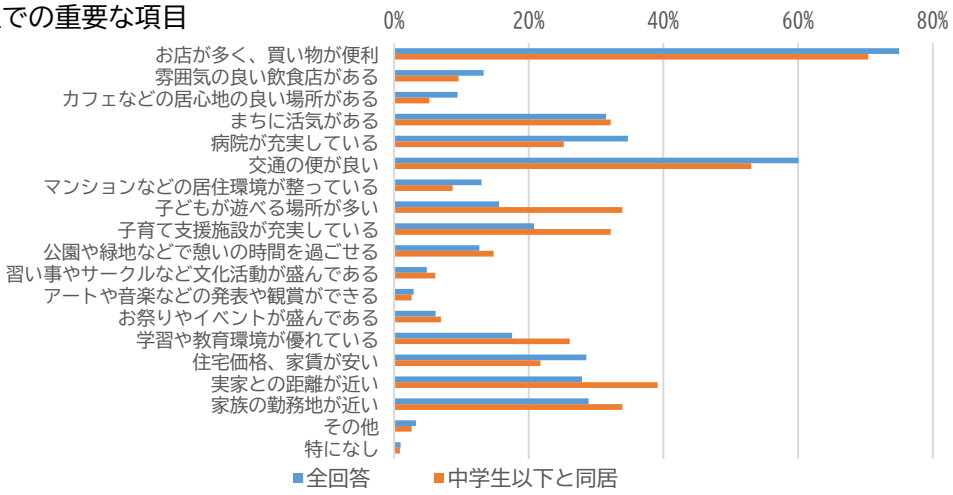
＜就業者（市外居住者）アンケート＞

- 居住地は「高松市」「丸亀市」で約 3 割ずつを占め、隣接市町でみると約 8 割となっており、**隣接市町から多くの人が働きに来ている**ことが分かる。
- 現在の居住地と坂出市の比較では、「病院が充実している」「交通の便が良い」「住宅価格、家賃が安い」については、隣接市町との差は少ないが、**多くの項目において「現居住地」を評価する意見が「坂出市」に比べ多い。**
- 現在の居住地と坂出市の比較における回答者の現居住地別回答を見ると、買い物や飲食施設等の**商業環境と子どもが遊べる場や公園緑地等の憩いの場の充実状況が隣接市町に対して評価されていない**ことが伺える。
- 居住地選択の上で重要な項目としては**買い物環境と交通利便性を挙げる人が多く**、次いでまちの活気、医療環境、住宅価格（家賃）、実家との距離、家族の勤務地との距離を挙げる人が多い。
- 子育て世代（中学生以下と同居）に限って見ると全回答に比べ、**子どもが遊べる場所や子育て支援施設の充実、学習・教育環境の充実**、実家との距離、家族の**勤務地との距離**を重視する傾向がある。

まとめ

- 居住地選定の上で重視される**買い物環境やまちの活気**については隣接市町に対して**評価されていない**現状がある。一方で**交通利便性や医療環境**については高松市を除き、**一定の評価がある**と考えられる。
- 子育て世代に限って見ると**子どもの遊べる場や子育て支援施設の充実も重視されるが隣接市町に対して評価されていない**ことが分かる。

■居住地選択の上での重要な項目



■居住地と坂出市の比較（居住地別クロス集計）における各項目 5 段階評価

	お店が多く、買い物が便利	雰囲気の良い飲食店がある	カフェなどの居心地の良い場所がある	まちに活気がある	病院が充実している	交通の便が良い	マンションなどの居住環境が整っている	子どもが遊べる場所が多い	子育て支援施設が充実している	公園や緑地などで憩いの時間を過ごせる	習い事やサークルなど文化活動が盛んである	アートや音楽などの発表や観賞ができる	お祭りやイベントが盛んである	学習や教育環境が優れている	住宅価格、家賃が安い
高松市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
丸亀市	1	1	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	1	2	2
宇多津町	1	1	1	1	5	2	1	1	2	1	2	2	2	2	3
その他の県内市町	4	3	3	2	5	5	5	2	3	2	3	4	3	3	1

凡例	
1	現居住地が約半数以上を占める
2	現居住地とどちらとも言えないが大半を占める
3	坂出市と現居住地は同程度
4	坂出市とどちらとも言えないが大半を占める
5	坂出市が約半数以上を占める

（2）さかいで未来会議（高校生ワークショップ）

＜概要＞

目的

次世代を担う高校生等に、本市の現状について理解を深めてもらうとともに、将来の坂出駅前複合施設や坂出緩衝緑地について、香川大学の協力のもと、グループワークを通じて、高校生の目線から考えてもらうものとして実施した。







構成員

高校生 17 名

香川大学沙弥島プロジェクト学生 9 名

坂出市職員 4 名

※4班体制に分かれて議論

実施日程

令和 4 年 5 月 11 日～令和 4 年 11 月 12 日にかけて計 10 回実施

令和 4 年 5 月 11 日（水）	スタートアップミーティング
令和 4 年 5 月 28 日（土）	第1回 アイスブレイク
令和 4 年 6 月 15 日（水）	第2回 「坂出のええとこ，いかんとこ，話さん？」をテーマにグループワーク
令和 4 年 7 月 9 日（土）	第3回 坂出緩衝緑地視察
令和 4 年 7 月 20 日（水）	第4回 視察をもとに「アピールポイント」「改善すべき点」についてグループワーク
令和 4 年 8 月 10 日（水）	第5回 「坂出緩衝緑地の活用方法」についてグループワーク
令和 4 年 8 月 23 日（火）	第6回 先進地視察：岡山県岡山市（ブランチ岡山北長瀬），高梁市（高梁市図書館）
令和 4 年 9 月 28 日（水）	第7回 視察をもとに「あったらいいなと思う複合施設」についてグループワーク
令和 4 年 10 月 26 日（水）	第8回 「みんなで複合施設をつくる」をテーマにグループワーク
令和 4 年 11 月 12 日（土）	第9回 最終報告会

＜坂出市のええとこ、いかんとこ、話さん？＞

坂出市のいいところといまいちなところをテーマにグループワークを行った。

［いいところ］

- 「住みやすさ」「自然が豊か」「食べ物がおいしい」など、**生活環境の良さ**についての意見が多くあった。
- 「国府の歴史深さ」「瀬戸大橋がある」「工業が発達している」など**誇りに思う場所**についての回答もみられた。

［いまいちなところ］

- 「若者の遊び場が少ない」「お店が少ない」「勉強するスペースがない」など**若者にとっての居場所の少なさ**を訴える声が最も多い。
- 「商店街が暗い」「駅や商店街のにぎわいがない」など、**商店街の活気のなさ**を問題視する意見があった。
- 「移動手段に困る」など**交通の便の悪さ**を指摘する意見もみられた。

＜坂出緩衝緑地について＞

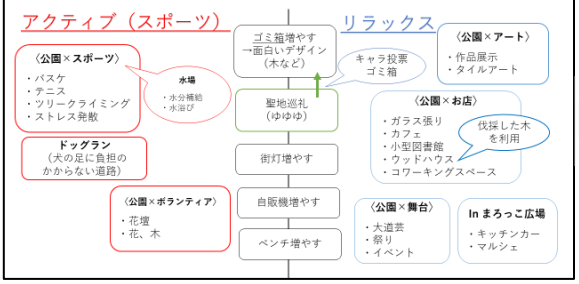
坂出緩衝緑地を視察した上で、緩衝緑地の活用方法を検討し、これからの坂出緩衝緑地について提案を行った。

［各班発表のまとめ］

- 坂出緩衝緑地視察の結果、良い点として**「緑が多く涼しい」「散歩に適している」**などが、問題点として**「暗い」「整備が不十分」「遊ぶ場所がない」**などが挙げられた。
- 坂出緩衝緑地を活用し、スポーツ施設やドッグランなどの**活動的な場**と、アート施設やカフェなど**静かに過ごせる施設**の両方を設ける提案があった。
- 道路の整備やごみ箱の設置により**居心地の良い場所**にする意見や、マルシェやクラフトハウスを設けることで**明るい場所**とすることを提案している班があり、**安心感や安全感**を求めていることがみて取れる。
- 「ワークショップの開催」「イルミネーション・ライトアップ」など、**イベントを通して多くの人に訪れてもらう**提案もみられた。
- 「遊具を設置する」「ドッグランを設ける」など**子供やペットと時間を過ごす場**を求める意見もあった。

■緩衝緑地どう使う？

【１班】



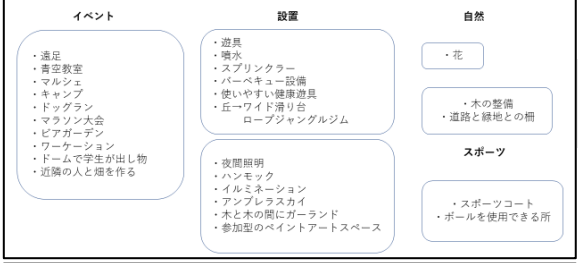
【２班】

- ブランコ、ジップライン等遊具の設置
- マルシェ、ワークショップを開催
- イベントができるステージを改良
- 観覧車をつくる
- 秘密基地やクラフトハウスを作る

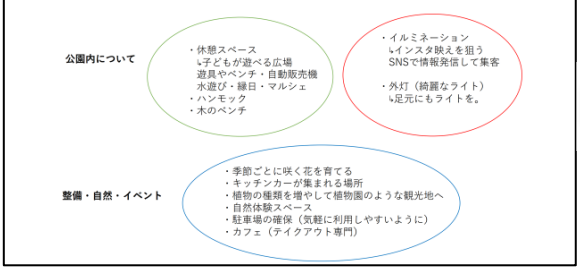
明かりが増える、一日中過ごせる



【３班】



【４班】



■坂出緩衝緑地　最終提案

【１班】

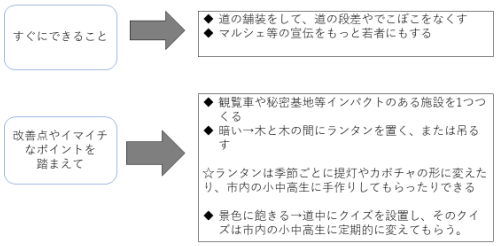
- 緩衝緑地と様々なものと掛け合わせる
- 香川県が舞台となるアニメ（結城友奈は勇者である）の聖地巡礼
- 環境に配慮したものづくり

（例）木を用いて新しく建物などを作る

→伐採した木を再利用する

- 多くの人々が利用しやすい環境（水場の設置など）

【２班】



【３班】

- 今ある自然を活かした場
- 遠足や青空教室などによるイベントでの地域住民の介入
- 人々が訪れ、交流できる場

【４班】

全世代にとっての「憩いの場」づくり！

◎子育て世代：安全な道や広場、楽しい遊具

◎若者：SNS映え（イルミネーション・ライトアップ）

◎お年寄り：休憩所の設置、交流イベント

◎全世代：季節のイベント開催

＜**複合施設について**＞

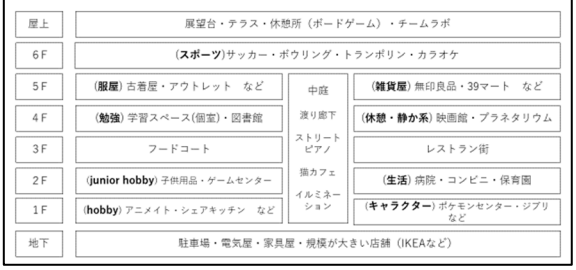
近隣の複合施設を視察した上で、理想の複合施設を検討し、これからの坂出駅前複合施設について提案を行った。

［各班発表のまとめ］

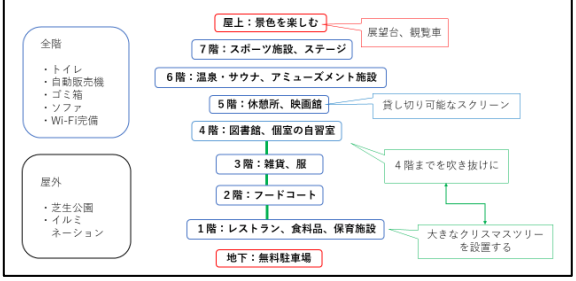
- 近隣複合施設視察の結果、良い点として**「開放的で明るい」「どの世代でも楽しめる」「市民の憩いの場となっている」**などが挙げられた。
- 「学習スペース」「図書館」「スポーツ施設」「カラオケ、ゲームセンター」「WiFi 完備の休憩スペース」等、放課後や週末の**若者の居場所**を求める声が多いことが分かる。
- 「明るく開けた雰囲気にする」「中庭を設ける」「植物やベンチを置く」など、**人が集うことのできる空間**を提案に組み込んでいるものが多かった。
- 「服屋」「飲食店」「雑貨屋」「映画館」等、**商業施設を必要としている**ことが伺える。
- 「地元の人のための複合施設」「生活しやすい坂出となる施設」など、**住民の日常生活がより良くなる場所**を求める声が挙がった。

■どんな複合施設があるといい？

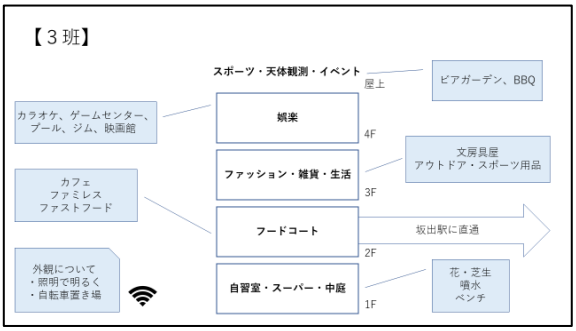
【１班】



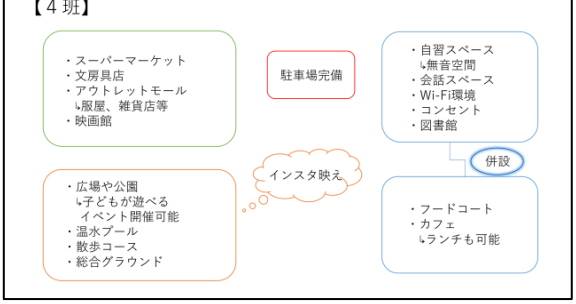
【２班】



【３班】



【４班】



■複合施設　最終提案

【１班】

- 四国、香川初店舗
- ツインタワーの特徴を活かしてエリアごとに対象者を変え、店の種類を分ける
- 同じ階の建物をつなぐ渡り廊下内も有効活用する
  （ストリートピアノ・中庭・イルミネーションなど）
- 複合施設全体にWi-Fi

【２班】

よくある複合施設の要素＋革新的なアイデア

- 観光客のためではなく地元の人のための複合施設
  →気軽に行けて、１か所で完結できるようなもの
- 高校生が複合施設に求めていること→勉強と遊びを一緒に
  勉強スペース→壁一面に本が並び、集中できる空間に
  遊べる場所→定番なものから通常の複合施設にはないものまで

⇒継続的に利用してくれる若者の創出、新規顧客の獲得につながる

【３班】

- 人が集う場所
  明るく開けた雰囲気、植物、ベンチ
- 坂出にない店舗
  飲食店、服屋、雑貨屋
- 自習室、図書館など学生が訪れやすい場所

【４班】

◎生活しやすい坂出
→若者向けの服・雑貨・飲食店

◎遊んで楽しい坂出
→休日に家族や友達と遊べる施設

◎学びに適した坂出
→誰もが平等に利用できる学習スペース

若者向け施設を増やす！

2－4. 中心市街地再生の基本的な考え方

（1）再生コンセプト

市全体のまちづくりの方向性

- 「働くまち」と「住むまち」の両立
- 日々の暮らしの中で、満足感や幸福感を感じられるような「居場所」「機会」の創出
- 価値観の多様性や居心地のよさ、安全性、環境への優しさなどの強化
- 子育て世代をターゲットに、選ばれるまちの実現

＋

現況整理やアンケート結果をふまえた中心市街地の強みと弱み

中心市街地の強み

坂出駅を中心とした多くの人の往来
- 坂出駅は乗降客数がＪＲ四国内で第４位を誇り、バスなどの交通インフラの結節点となっている等、多くの人が日常的に利用している
- 昼夜間人口比率が高い水準にあり、多くの人が働きに来ている
- 中心市街地内の場所を目的地として訪れる人が多い

住宅地としての一定のニーズ
- 市内人口の約 5 割が居住
- 共同住宅の供給が増加する等、居住地として一定のニーズが存在

多様な教育機関
- 幼稚園から高校まで多くの教育機関が立地しており、駅を中心に日常的に往来が多い
- 普通科に加え、様々な専門的な学科を有する学校が立地している

医療機関の充実
- 多くの病院が立地し、医療機関が充実している

新たな動き
- 商店街における活性化の取組
- 坂出北 IC のフルインター化
- 瀬戸内国際芸術祭による島しょ部の認知度向上

中心市街地の弱み

憩いの空間の欠如
- 都市公園等が活用されておらず、駅周辺に憩いの空間が少ない
- 高校生の放課後を過ごす場所として選ばれていない
- 居心地の良い場所や子どもが遊ぶ場所が少ない
- 気軽に食事やおしゃべりができる場所が少ない

滞在時間の短さ
- 人々が日常的に訪れる場所がエリア内に散在し、関係性がないため、回遊性が生まれていない
- 訪れる人の滞在時間が短く、1 つの目的地を訪れるだけに留まっている

経済的な衰退
- 中心市街地の商業機能が低下
- 大企業の規模縮小、撤退
- 買い物利便性やにぎやかさが不足している
- 不動産価値の減少が進んでいる

公共施設の老朽化と低い利用率
- 貸館機能主体の施設の利用者が少ない
- 財政負担軽減のために統合や複合化による最適化が必要

中心市街地におけるまちづくりの方向性

- 訪れる多様な世代の人が居心地よく過ごせる場を創出する
- 歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを展開し、回遊性を生み出すことで、滞在時間を増加させ、まち全体へのゆとりやにぎわい、活力を波及させる
- 市場のニーズや周辺の新たな動き、公共施設の再編等を活用し、推進力を得ながら進める
- 市民との共創により、愛着やコミュニティを醸成する

みんなの“ココチよさ”がかなうまち

～まちをひらき、未来をひらく～

中心市街地再生コンセプト

心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり

市民や市内で過ごす人が集まり、くつろぎ、交流することのできる**市民の居場所となるような場づくり**をおこなう。

「歩いて楽しいまち」の実現

歩行者中心の**歩いて楽しいまちを実現**することで人々の滞在時間を増加させ、**人・もの・ことと出会う機会を創出**する。また、人々がまちを回遊することで、各所で生み出されたにぎわいを**まち全体に波及**させていく。

「市民との共創」によるまちづくりの推進

市民や民間との共創により、持続可能なまちづくりを実現することで、**まちの価値向上**に努めるとともに、**坂出への愛着とコミュニティ、誇りを醸成**し、**子育て世代や若者が住み続けたくなるまち**をめざす。

コンセプトから想起される風景や活動のイメージ

- 用事がなくてもふらっと立ち寄ることができる
- 各自が思い思いの時間を過ごすことができる
- 様々な世代が交流し、共に過ごす

- 色々な場所を歩いて回ることができる
- まちの中で思いがけないものに出会う
- 様々な活動がまちの中に溢れる

- 市民がにぎわいや居場所づくりを主体的に行う
- 市民と行政が対話をしながら取組を進める
- 自分のまちに誇りと愛着を持てる
- 人と人のつながりが生まれる

（2）コンセプトを支える取組

コンセプト実現にあたり、下記の内容について取組を進める。

市民や民間主体によるチャレンジの促進

- にぎわいづくりや立ち寄りスポットの創出には、空き家や空き地を活用することも含めて、**市民や民間主体による取組が不可欠**である。
- 必要に応じて行政による支援等、公民連携を進めることでチャレンジを促進し、**市民との共創によりエリア全体の活力を醸成**する。

民間との共創によるノウハウの活用

- 民間と共創することで**ノウハウを活用**し、各エリアに**居心地の良い居場所の創出**をおこなう。

機会の活用による人や投資の呼び込み

- 坂出北 IC のフルインター化による**交流人口の増加**や県外から多くの人を集める瀬戸内国際芸術祭、市内公共施設の再編等の機会を活用し、**人々の流れや投資を呼び込み、コンセプトの実現を加速**させる。

新たなモビリティ導入等による市街地内移動の誘発

- **エリア間のつながりや回遊性を誘発**するために人々の移動手段や中心市街地外からのアクセス、中心市街地内の移動に対し、**モビリティの導入等新たな取組**をおこなうとともに、**社会実験による課題発見と機運醸成**をおこなう。
- 取組にあたっては、市内だけに限らず、**周辺市町との連携も視野に入れ**、利用者の利便性向上を図る。

SNS やアプリケーション等を使った情報発信により興味を引き出し、愛着を醸成

- SNS やアプリケーション等のソフトウェアを活用し、まちの中の魅力や起こっている変化を市民や市外の人に伝えることで、**興味を引き出し、愛着を醸成**することで、まちの中での**回遊や取組への参加を促す。**

DX の推進

- 施策を進めるにあたっては**データ整備やデジタル技術の活用**を進め、地域の**課題解決や市民参加、市民の利便性向上**等を図る。

「ゼロカーボンシティ」の推進

- 市では令和 3 年 9 月に「ゼロカーボンシティ」を宣言しており、SDGs の観点からも中心市街地再生においては市民や民間と連携しながら**温室効果ガス排出量削減**に積極的に取り組む。

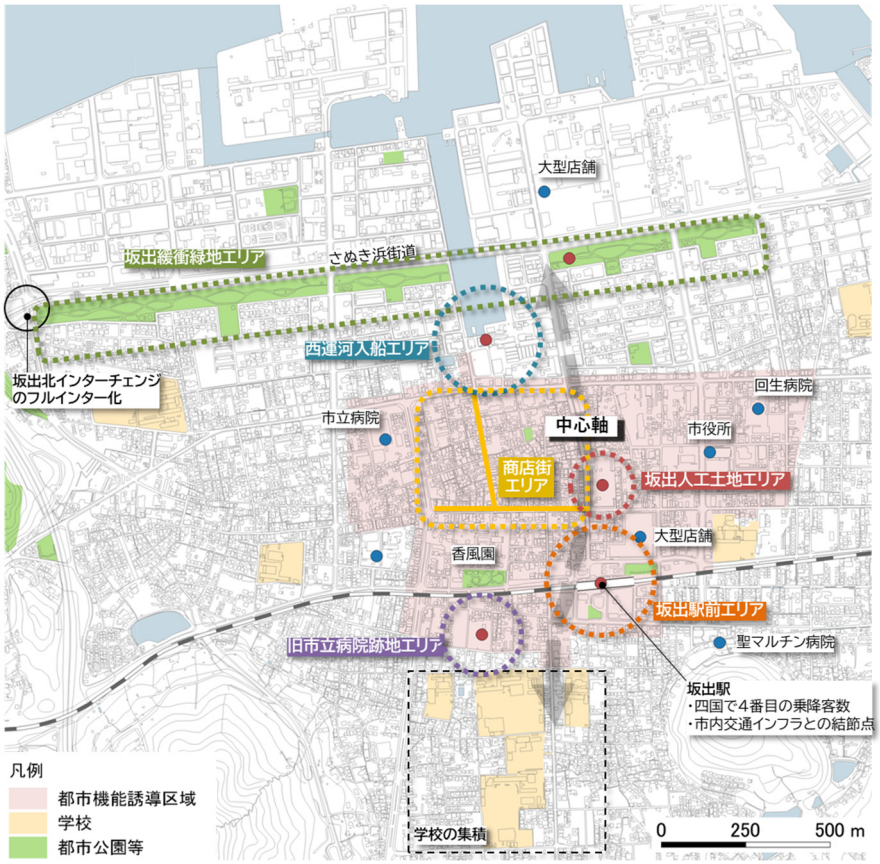
（3）実現に向けたイメージ

- 現状の中心市街地には訪れる人が心地よく過ごせる**憩いの場や滞留空間が少ない。**
- 人々が日常的に訪れる場所は行政機関や銀行、病院、学校、図書館、郊外の大型店舗、そして交通結節点となる坂出駅等、**エリア内に散在し、関係性がないため、回遊性が生まれていない。**
- 多くの市民が車で中心市街地を訪れることをふまえながら、既存施設の徒歩圏をつなぎ合わせる位置に存在し、かつ**ポテンシャルを有する6つのエリア**に居心地の良い居場所づくりをおこなうことで、人々が心地よく過ごせる場を生み出しながら、それらの各動線をつなぎ、**地域内に小さな回遊性を生み出していく。**
- 生まれた回遊性を高め、重ねあうことで更なる**滞在時間の増加**や**活動の多様化**につなげ、**にぎわいをまち全体に波及**させる。
- それぞれの回遊性が重なりあうことで浮かび上がる南の文教地区から坂出駅を抜け、坂出緩衝緑地と瀬戸内海へつながる動線を**まちの中心軸**として位置づけ、中心市街地内の**回遊や活動を結びつける場**とする。



※①②図内の破線円は徒歩圏（半径 350m）を示す

■6 つのエリアとまちの中心軸



（4）居場所としての 6 つのエリアの特徴をふまえた方向性

■坂出駅前エリア

エリアの特徴

- 乗降客数が JR 四国内第 4 位を誇り、バスなどの交通インフラの結節点となっている等、**多くの人の利用**がある。
- 高校生の約35%が鉄道により通学する等、**学生の利用も多く、南側の文教地区と駅北側をつなぐ拠点**となりうる場所である。
- 現状の駅前広場や市民広場は人が憩えるような空間となっておらず、**閑散とした雰囲気**となっている。
- 市民からは**にぎやかな店舗や居心地の良い場所を求める声が多い。**
- **駅北側の駅前広場整備が未完了**となっている。

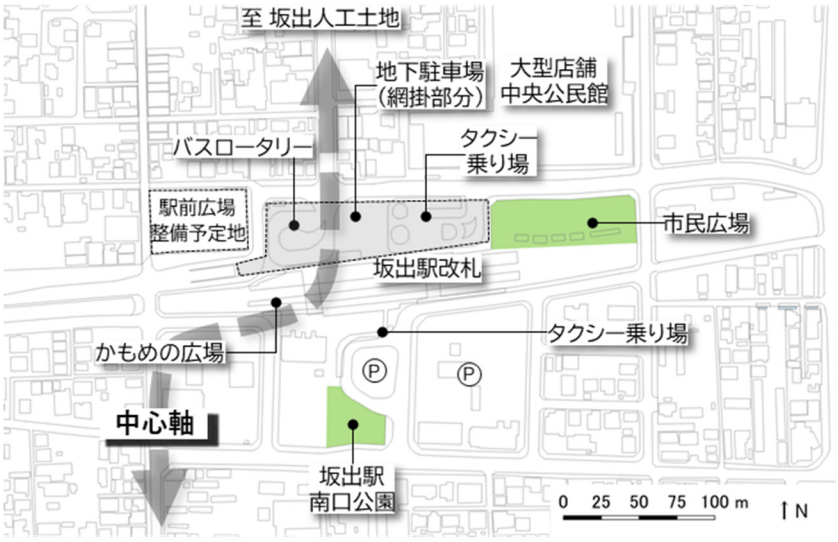


駅舎



バスロータリー

現況図



方向性

Station Gate

子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場



- 「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の創造
- 交通結節点機能をいかし、みんなが集まれる中心市街地の拠点機能
- 高校生が放課後を過ごすことができる場の創出
- 市外から電車でアクセスする人にとっての玄関・ガイダンス機能
- 日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間の創出
- 駅前にふさわしく必要な都市機能の創出

■坂出人工土地エリア

エリアの特徴

- 1968～86 年にかけて建設され、老朽化が進んでいるが、DOCOMOMO JAPAN(日本におけるモダン・ムーブメントの建築)に選定される等、建築界からの評価も高く、**保存を求める声も多い。**
- 坂出駅から徒歩圏内にあり、**利便性は高い。**
- 併設された市民ホールや道路(坂出停車場線)沿いに**街路空間に対して開けた2つの広場や店舗**を備える。
- 1階は建物中央に通路が設けられている空間構成となっており、老朽化とともに**暗く近寄りがたい印象**を与えている。
- 令和 4 年 2 月に**市民ホールの大規模改修が完了**し、活用が期待されている。

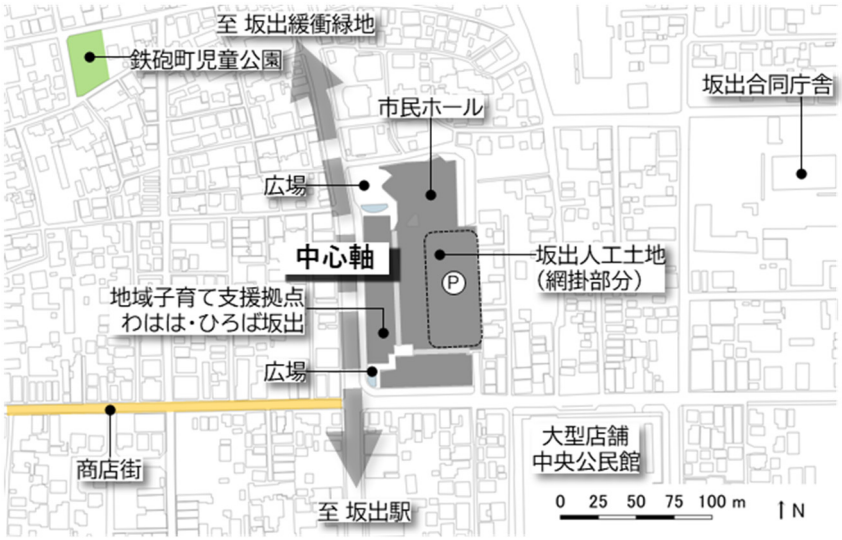


道路沿いに並ぶ店舗



交差点に面する広場空間

現況図



方向性

Culture Gate

市民ホールを核とした文化的活動拠点とし、人と文化の交流と創造の場



- **市民ホールを核とし、文化活動を身近に感じられる場の創出**
- **街路沿いの店舗や交差点の広場を活用した滞留空間の創出**
- **建築的価値をいかし、市民が誇れる場所としての愛着と誇りの醸成**
- **利便性と建築空間をいかし、市外からの来訪者も見据えた展開**

■坂出緩衝緑地エリア

エリアの特徴

- 北側の工業地帯と南側の住宅地を隔て、住民の健康と生活環境の保全を図るため整備され、西大浜緑地、東大浜緑地あわせて9 ha、東西に 2km の長大な緑地空間であり、整備から 40 年を超え、木々が成長し、**緑豊かな空間**となっている。一方で暗い印象も与えており、市民が**気軽に立ち寄ることが難しいと言われている。**
- 令和 6 年度には坂出北 IC のフルインター化により、隣接するさぬき浜街道のさらなる**交通量の増加**が予想され、**車によるアクセス利便性は高い**ことから**交流人口の増加**が予想される。
- 日常的に多くの人が訪れる大型店舗に近接している。

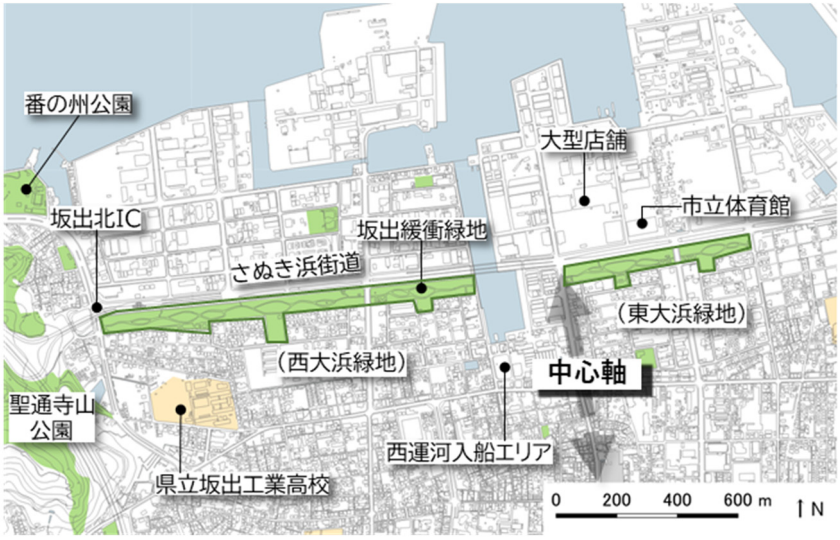


緑豊かな空間



さぬき浜街道に隣接

現況図



方向性

Community Gate

豊かな自然環境と長大な空間をいかしながら、多様な世代が集い、交流する市民の活動拠点を創出する場



- **住宅地に近い中心市街地に位置する豊かな緑をいかした憩いの場の創出**
- **長大な空間をいかした連続性や多様な魅力を持つ場の創出**
- **車によるアクセス利便性の高さをいかした中心市街地への玄関機能**
- **交流人口の増加をいかした坂出の魅力発信**
- **多様な世代が日常的に集い、交流する市民の活動拠点としての活用による愛着と誇りの醸成**

■西運河入船エリア

エリアの特徴

- **港町坂出のいにしえの中心地**として重要な場所である。
- 渡し船が発着していた等、**島しょ部との歴史的なつながりが強い。**
- 中心市街地に1番近い水辺空間であり、**市民が水辺とふれあうことのできる**数少ない場所となっている。
- 隣接する工場の閉鎖が発表されている。



西運河入船エリアの様子



水辺空間の様子

現況図



方向性

Port Gate

水辺空間の活用により、魅力的な場を創出し、港町坂出を発信する場



- **貴重な水辺をいかした親水空間の創出**
- **島しょ部とのつながりを含めた港町坂出の発信と誇りの醸成**
- **海の玄関としてネットワークをいかした他の港との連携**
- **坂出緩衝緑地エリアと連携した中心市街地への玄関機能**

■商店街エリア

エリアの特徴

- かつてはにぎわいをみせていたが、現在は**空き店舗や空き地が増加し、商業機能が低下**している。
- 一方で、商業者を中心に定期的にイベントが開催されており、**市民主体のにぎわいづくりの取組**が進められている。
- 坂出駅前や坂出人工土地、西運河入船エリア、市立病院をつなぐ位置に存在し、中心市街地内に**回遊性を生み出す上で重要な位置**にある。



イベントの様子



商店街の様子

現況図



方向性

Challenge Gate

市民や民間主導のチャレンジにより小さな居場所やにぎわいを創出し、各エリアのつながりを生み出す場



- **居心地の良い店舗等、民間主導により居場所を創出**
- **空き店舗や空き地を活用したチャレンジの誘発**
- **滞留空間やにぎわいの連続を生み出すことで各エリアをつなぎ、回遊性を創出**
- **イベント等をきっかけとするにぎわいづくりと機運醸成**
- **利便性をいかした居住空間の創出**

■旧市立病院跡地エリア

エリアの特徴

- 敷地面積約 8000 ㎡の**中心市街地内では最大の公共用地**である。
- 坂出駅や南側に集積する高校などの教育施設から徒歩圏内にあり、**利便性が高く、学生の利用も期待**される。
- 駅南側は公園等の**市民の憩いの場が少なく、ゆとりの創出が望まれる。**
- 市民が好きな場所・誇りに思う場所として上位に挙がる**香風園や市民ふれあい会館に近接**しており、連携した取組が望まれる。
- **周辺は住宅地**となっているため、整備の際は**一定の配慮が必要。**
- 香風園および市民ふれあい会館において、イベントが行われる場合には**駐車場が不足**している。

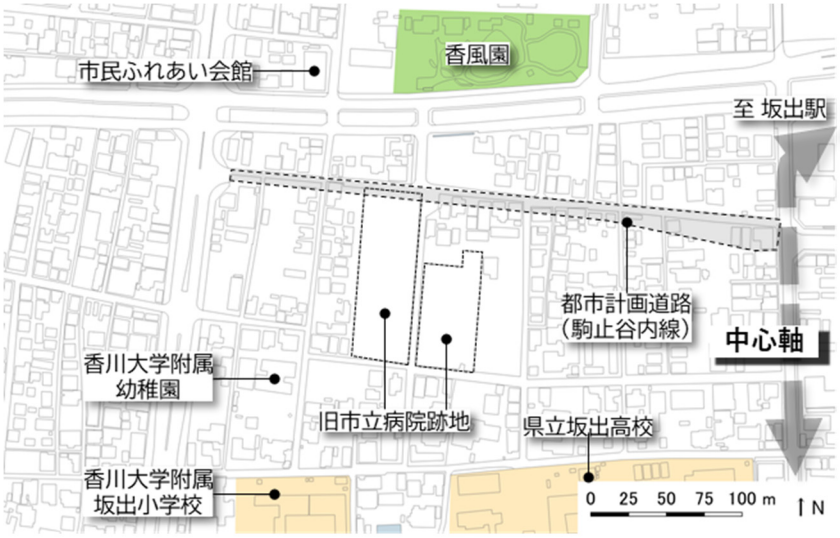


跡地の様子



近接する香風園

現況図



方向性

Future Gate

市民が気軽に過ごせる場を創出し、ゆとりを生み出し、市民が成長できる場



- **坂出駅南側の憩いの空間の創出**
- **香風園および市民ふれあい会館と連携した取組の展開**
- **文教地区に近接しており、市民が成長でき、育てる場の創出**

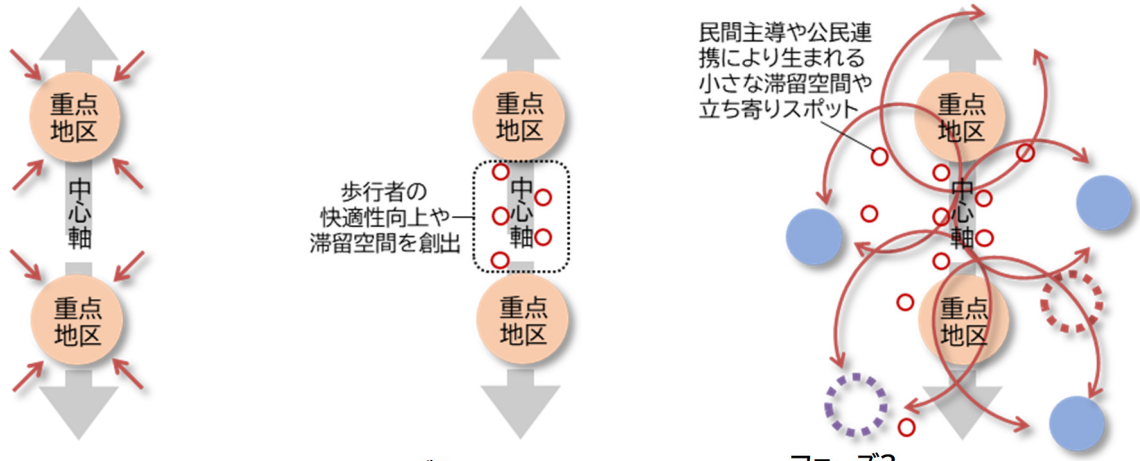
2－5. 中心市街地再生戦略

（1）全体戦略

2つの重点地区を定め、魅力を創出し、
中心軸によってつながりを強化とすることで、市街地再生の原動力とする

- 最終的な中心市街地の再生に向けて、各居場所における取組を進めていく必要があるが、限られた財源の中で全てを等しく進めることは現実的ではない。**優先順位をつけ、効果的に再生を進める**ことが大切である。
- 中心市街地の中で最も人が往来する**坂出駅前**と坂出特有の魅力を持つ**坂出緩衝緑地エリアと西運河入船エリアを一体的に捉えた地区**を重点地区と定め、取組を進めることで2地区の魅力を創出する。
- 2つの**重点地区を結ぶ動線を中心軸**と定め、歩行者の快適性の向上や**滞留空間づくり**等をおこなうことで、**にぎわいとつながり**を生み出す。
- その後、生み出されたにぎわいを他のエリアを起点とした回遊に広げていくことで、**中心市街地全体の再生をめざす。**
- にぎわいや滞留空間づくりにおいては公民連携を進め、**市民との共創により生み出していく。**

■戦略展開イメージ



フェーズ１
中心軸上に位置する重点地区で優先的に取組を進め、魅力付けをおこなう。

フェーズ2
2つの重点地区を結ぶ動線に滞留空間等を生み出すことでにぎわいとつながりを生み出す。

フェーズ3
生み出されたにぎわいを各拠点等に波及させ、まち全体が有機的につながり、様々な回遊性がエリア間に生まれる。

（2）重点地区選定の考え方

全体戦略において定めた重点地区の考え方は下記の通りとなる。

[重点地区①] Station Gate ： 人々の移動、回遊の結節点

- 坂出駅は通勤者や学生等多くの人が日常的に訪れ、かつ各エリアの中央に位置するため、**波及効果を生み出す上で最も重要な拠点となる場所**である。
- 公共交通の結節点として訪れた人が本市を回遊する始点であり、各エリアからの目的地ともなるように**魅力付けをおこなうことで、エリア間における回遊性の誘発**が期待できる。
- JR 四国第 4 位の乗降客数を誇り、**四国の玄関口**であることから、多くの人が訪れる場所であり、**市の魅力を発信する上で効果的な拠点となる場所**である。

[重点地区②] Community Gate / Port Gate ： 人の流れを生み出し易く、坂出特有の魅力を持つ場

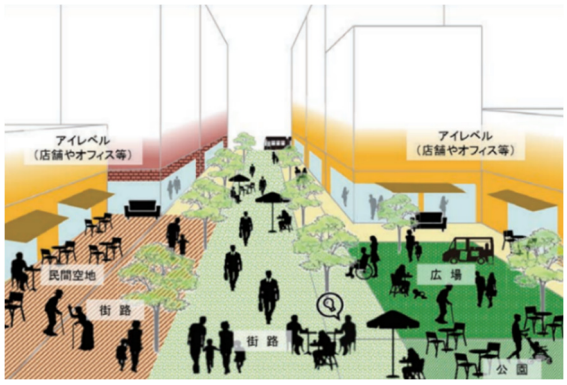
- 交通量の増加が予想されるさぬき浜街道や多くの人が訪れる大型店舗が近接しているため、**多くの人の目に触れ、人の流れを生み出しやすい場所**である。
- 長大な緑地や港町の歴史を有する水辺といった既存環境の潜在力をいかした取組を展開することで、**他市町にはない魅力づくりが可能**である。

（3）中心軸の考え方

［中心軸］： エリアのつながりを強め、にぎわいが表出する場

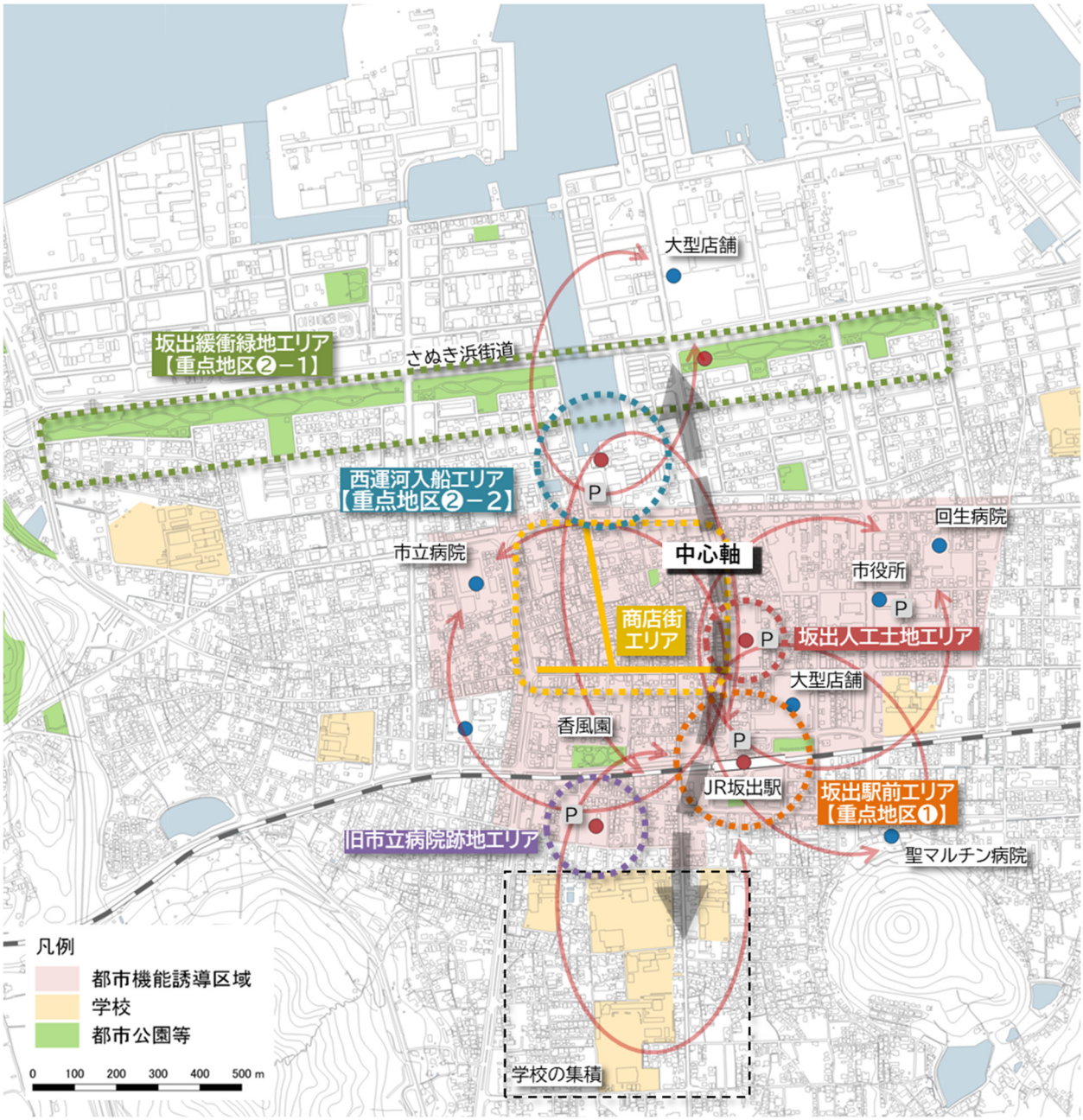
- **2つの重点地区を結び、各エリアからの回遊が重なり合う場所**に、歩いて楽しいまちを体現する場所として歩行者の快適性向上や滞留空間の創出を重点的におこなうことで、にぎわいを生み出す。
- 具体的には**緑あふれる魅力的な歩行空間**や**滞留空間の創出**について、**実証実験**を通して関係者との**合意形成**や**課題発見**、**市民の気運醸成**を図りながら、**歩道部の拡幅**等を行う。
- 中心軸によって各エリアをつなげ、連携させる。
- 各エリアを起点とすることで市内および周辺市町からの来訪者も中心市街地内を歩いて楽しむことができる。

■歩いて楽しいまちのイメージ



出典）ストリートデザインガイドライン（国土交通省）

■中心市街地再生のイメージ



3．坂出駅前エリア再整備の検討

3－1. 居場所としてのエリアの特徴をふまえた方向性

Station Gate

子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって
「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場

- 「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の創造
- 交通結節点機能をいかし、みんなが集まれる中心市街地の拠点機能
- 高校生が放課後を過ごすことができる場の創出
- 市外から電車でアクセスする人にとっての玄関・ガイダンス機能
- 日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間の創出
- 駅前にふさわしく必要な都市機能の創出

3－2. 求められる場と活動のイメージ例

方向性をふまえ、下記のような場が坂出駅前エリアに求められる。

「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の創造

- 用事が無くても気軽に立ち寄れる場
- 様々な世代が交流し、共に過ごせる場
- 快適で居心地の良い憩いの場
- 様々な世代にとっての学びの場
- 子どもたちが安心、安全に遊べる場


親子で遊べる
（泉大津市 HP より）


様々な人と交流できる
（周南市立徳山駅前図書館 HP より）

市外から電車でアクセスする人にとっての玄関・ガイダンス機能

- 市内の魅力や情報を紹介する場
- モビリティ等の市街地内移動の拠点となる場


まちの魅力知ることができる


モビリティでまちを回遊できる
（豊島区 HP より）

交通結節点機能をいかし、みんなが集まれる中心市街地の拠点機能

- 人数の多寡に関わらず様々な形で集まることができる場
- 市民の主体的な活動を支援する場
- 様々なサービスや支援を受けられる場


屋外でも集まり交流できる
（グルーンとこなめ HP より）


市民活動を支援できる
（柏市 HP より）

日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間の創出

- 広い空間でイベント等を開催できる場
- イベントの有無に関わらず、人々の憩いの場として、日常的ににぎわいを感じられる場


イベントが開催できる
（西尾市 HP より）


屋外空間で寛げる
（豊島区 HP より）

高校生が放課後を過ごすことができる場の創出

- 自習等で自由に使うことができる場
- 屋内外問わず、友達と交流できる場


自習等ができる


様々な活動ができる
（佐倉市 HP より）

駅前にふさわしく必要な都市機能の創出

- 坂出の顔となる風格のある場
- 電車や送迎の待ち時間を過ごせる場
- 県外からの来訪者が滞在できる場


気軽に立ち寄り、休める
（岐阜県観光連盟 HP より）


仕事や打合せができる
（壱岐市 HP より）

3－3. 現況と課題

中心市街地再生戦略において重点地区の一つとして定めた坂出駅前エリアについて再整備検討に先立ち、現況を整理し、方向性をふまえた上で再整備のあり方を検討する。

（1）現況

駅北側

- 循環バスや路線バスの発着点やタクシー乗り場があり、**公共交通の結節点**となっている。
- 駅前広場**地下には 126 台収容可能な地下駐車場**が位置しており、車両出入口が 2 箇所設けられている。
- 駅前の**大型店舗内には中央公民館**が設けられている。
- **駅北側の駅前広場整備が未完了**であり、西側に約2500㎡の駅前広場整備予定地が存在する。

駅南側

- 朝の時間帯には**来訪者を迎える車が多く発着**する。
- 放課後には**屋外のベンチで過ごす高校生**が見られる。
- 西側にはコンビニ、ファミレスが位置している。
- 市営、民営の駐車場が設けられており、市営の利用者の大多数は30分以内の利用（※30分以内無料）となっている。
- 坂出駅南口公園横には**仮設の駐輪場**が設けられている。

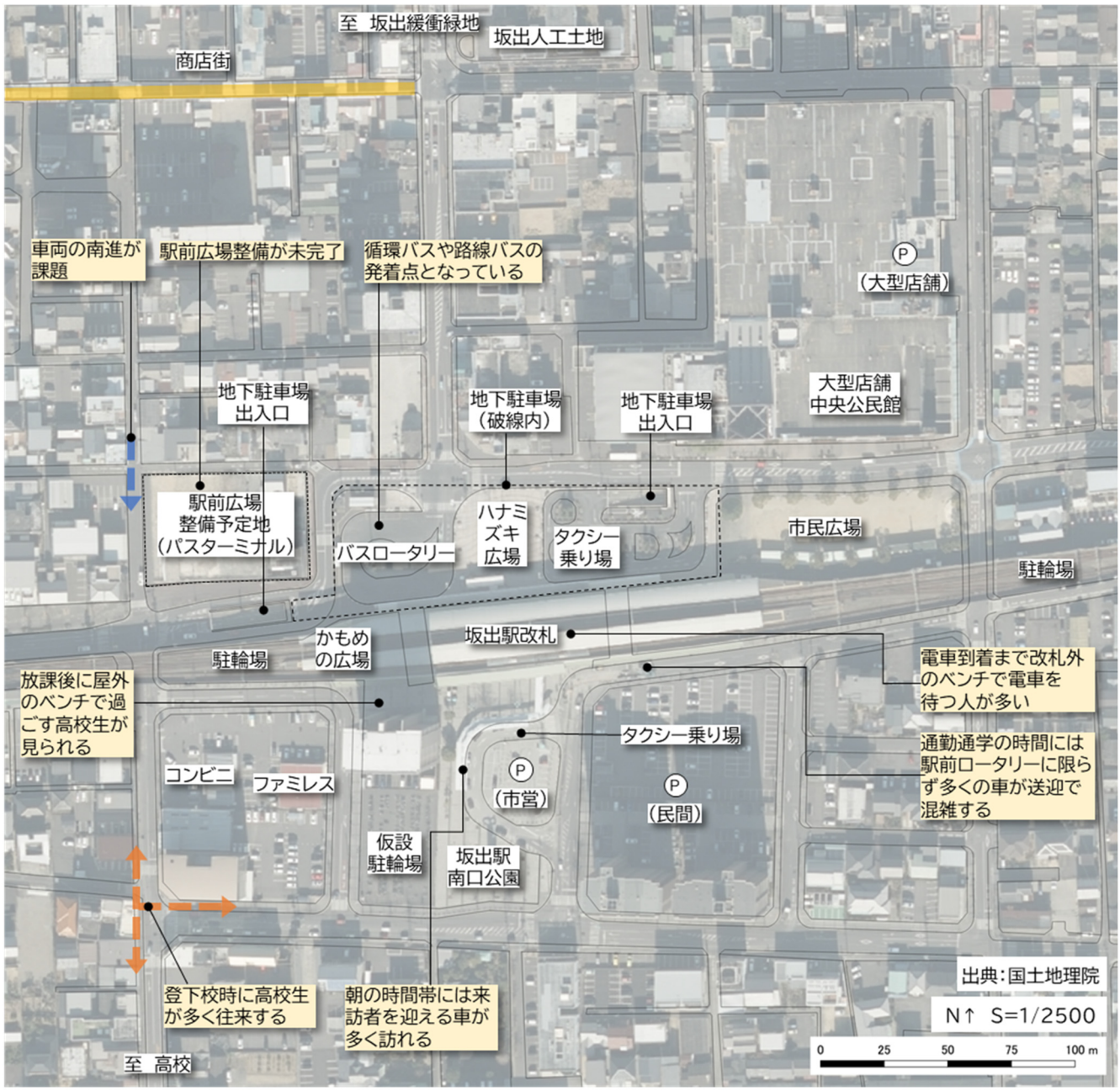
駅構内等

- 電車の到着まで**改札外のベンチで電車を待つ人が多い。**
- コンビニやカフェ、居酒屋等の店舗が存在する。
- 高架下には高校生向けの多目的スペース**「かもめの広場」**が設けられている。
- 観光案内所が設けられており、レンタサイクルの貸出が行われている。
- 南北を通り抜ける**自由通路が 2 箇所**設けられている。
- 高架下の東西に大規模な駐輪場が設けられている。

（2）課題

- バスロータリーやタクシー乗り場が多くの面積を占め、**車中心の駅前広場**となっている。
- 通勤通学等で多くの人が訪れるが、南北共に**憩いの空間が乏しい。**
- 市民広場は約 2700 ㎡のグラウンド状の広場となっているが、**あまり活用されていない。**
- 現都市計画上、駅前広場整備予定地の北西部に位置する**交差点において、商店街側より南進することができなくなることが課題**である。
- 駅南側には高校生や送迎者待ちの人等、多くの人が訪れるが、**駅北側に行くことは少ない。**
- 駅南側の平面駐車場や駅沿いの道路は、**通勤通学の時間には送迎のため多くの車で混雑**する。
- コンビニやカフェ、居酒屋等の店舗や広場やベンチ等が設けられているものの、市民を対象とした一般アンケートでは**にぎやかな店舗や居心地の良い場所を求める声が多く、**特に子育て世代においては**子どもが遊べる場を望む声が多い。**
- 高校生向けの多目的スペースが設けられているものの、高校生アンケートでは**友達と気軽におしゃべりできる場所や居心地の良い場所を望む回答が多い。**
- 市内勤務者（市外居住）へのアンケートでは、**駅の利便性や周辺の教育、医療環境を評価**する声があるものの、一方で、**仕事帰りに立ち寄る場所や飲食店、宿泊施設等がない**との意見もある。

■現況図（航空写真）



■現況写真


駅前広場整備予定地


バスロータリー


ハナミズキ広場


市民広場


かもめの広場


坂出駅南口公園

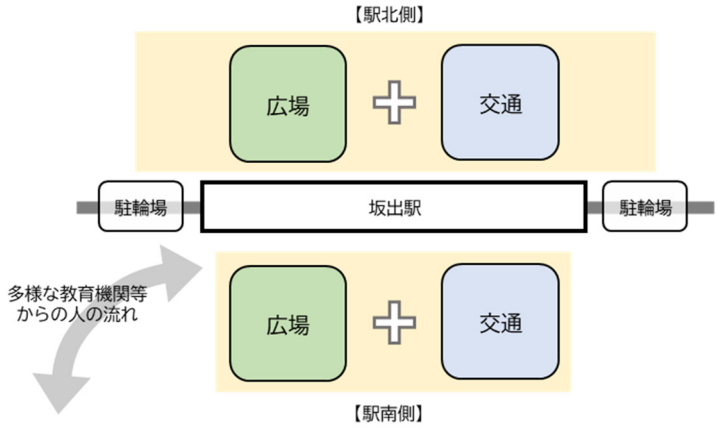
3－4. 再整備の考え方

（1）駅前空間再編の考え方

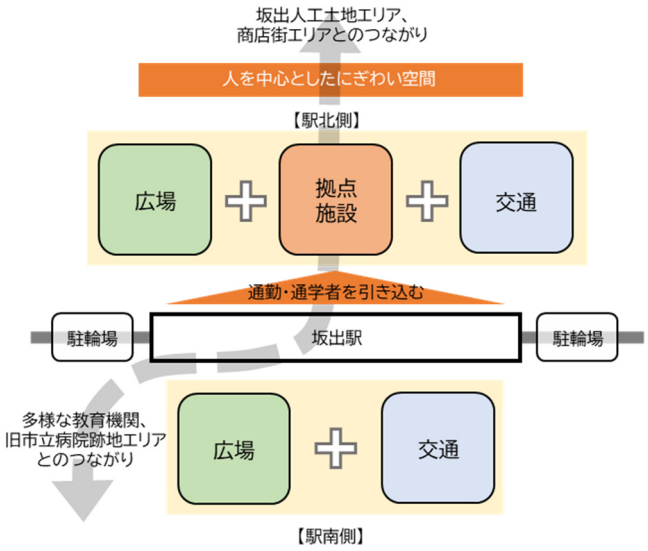
「まちのリビング」を実現するために、駅北側と南側で役割分担をおこない空間の再編を図る

- 駅前空間においては、公共交通等の車と共存しながら、**人を中心とした空間へ再編**を図ることで、様々な人が心地よく過ごせる**「居場所」を生み出し、「歩いて楽しいまち」の中心**となることをめざす。
- 現状の坂出駅前広場はバスロータリーやタクシー乗り場等の**交通機能が多くの場所を占め**、歩行者が居心地の良い場所とはなっておらず、憩いの場が少ないことから、駅前空間に高校生や子育て世代をはじめとする多様な世代の居場所となる**拠点施設を整備**することで**「求められる場」を創出**する。
- 中心軸や坂出人工土地等の**周辺エリアとの連携や波及効果を生み出す**ために、既存の**駅南側の人の流れを駅北側に引き込む必要**があることから、駅北側と南側で役割分担をおこなうとともに、**駅北側に拠点施設**を整備する。
- **拠点施設と広場を一体的な空間**とすることでイベント利用時や子ども、高校生等がのびのびと活動できる場や憩いの場を実現し、**日常と非日常でにぎわいを生み出し、利用しやすい駅前空間**をめざす。
- 商店街エリアとの交通機能の強化や各エリアとのつながりを生み出せるような**道路線形の変更の可能性も含めて検討**をおこなう。
- 駅北側と南側を含めた坂出駅前エリアと周辺エリアを面で捉え、**様々な活動へのアクセシビリティを高め、維持する**必要がある。

■現在の駅前空間



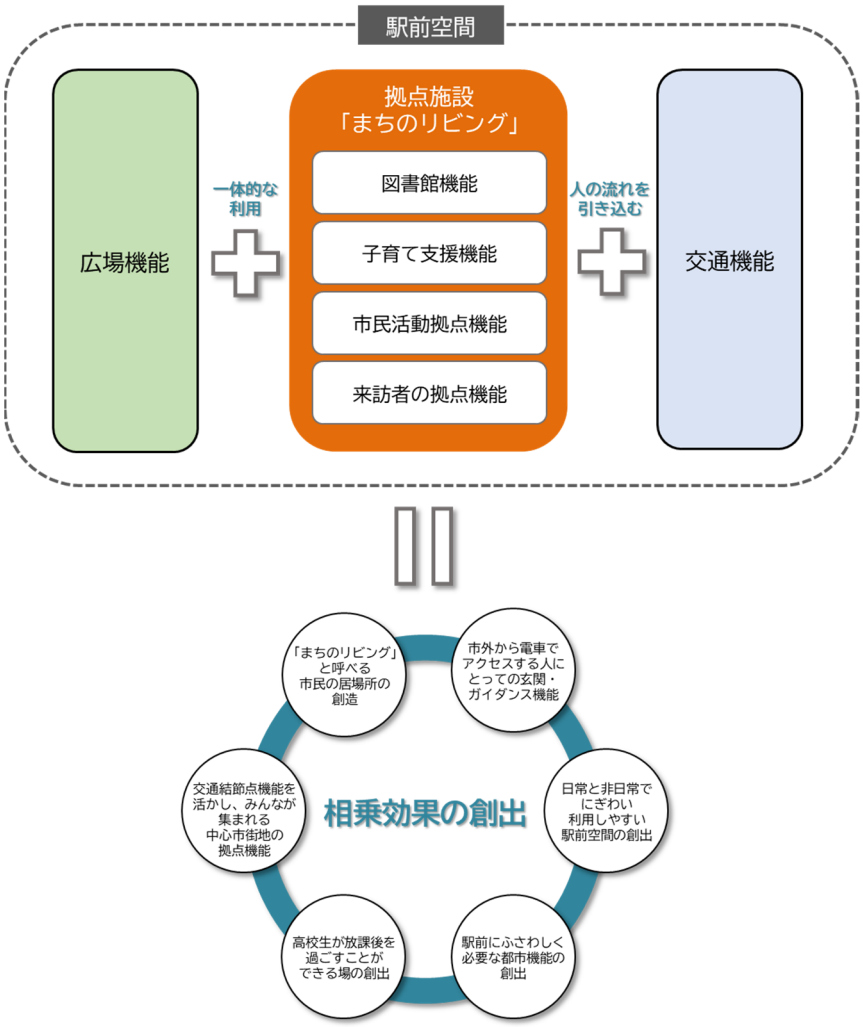
■再編後の駅前空間



（2）拠点施設整備の考え方

図書館機能を核とした複合施設とすることで、様々な人が訪れ、活動できる場を生み出す

- 坂出駅やバス等の公共交通を利用する多くの**人を引き込み**、利用してもらえる場とすることで、坂出駅前エリア内および周辺エリアへの**波及効果を生み出す場**とする。
- **「求められる場」を創出する**ために駅前空間に高校生や子育て世代の居場所の一つとなる**拠点施設を整備**する。
- 現状の市内公共施設の中でも多くの利用者数があり、多様な使い方が可能な**図書館機能を核とする**ことで、子どもから高齢者まで様々な世代にとっての学びの場や高校生が放課後を過ごすことができる場を生み出し、誰もが気軽に立ち寄れる**「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現**につなげる。
- 子どもたちが安心・安全に遊ぶことができる**子育て支援機能**を付加することにより、子育て世代をはじめとする多様な世代が共に過ごせる快適で**居心地の良い場を創出**する。
- 交通結節機能を最大限にいかし、貸館等の**市民活動の拠点機能**を付加することで、多くの人が集い、**交流できる場を創出**する。
- 四国の玄関口として、市外から訪れた人が滞在でき、市内の魅力や情報が得られる**来訪者にとっての拠点機能**を備えることで、**交流人口の拡大**につなげる。
- 市全体では公共施設の再編計画が進められており、整備にあたっては、求められる機能について**類似する公共施設を再編**し、機能を集約、複合化することで運営資源の集中等による**効果的な整備**と**相乗効果の創出**、**財政負担の最適化**を図る。



（3）市民や民間との共創の考え方

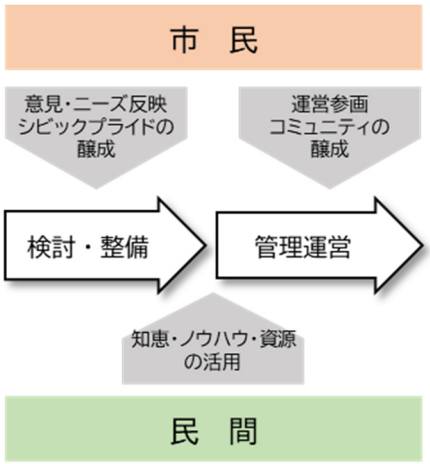
そこに暮らす人たちが自らの意思と責任で、地域の姿を考えるまちづくりをめざす

持続可能なまちづくり

- 市民や民間事業者等、**多様な主体との連携や協働**により、**魅力ある持続可能なまちづくり**に取り組む。

市民との共創

- 駅前空間再編や拠点施設整備については、市民との対話やワークショップ等を通じて**ニーズを把握**し、意見を反映するなど、市民と共に検討を進め、**将来のまちづくりの担い手やシビックプライドの醸成**につなげる。
- 整備完了後も**継続的に市民が関わり、コミュニティを育む仕組みづくり**をおこない、そこに暮らす人たちが**自らの地域の姿を考えるまちづくり**をめざす。



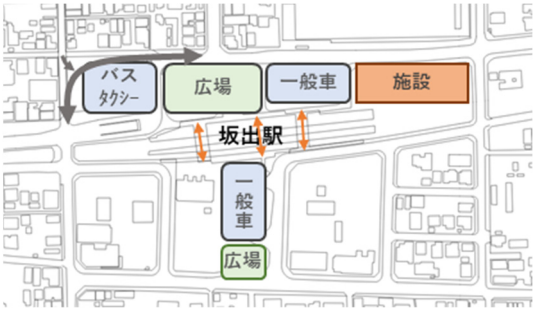
民間との共創

- **公共と民間でビジョンを共有**することで、人々が訪れたくなる魅力的な場の創出や施設・広場等の運営に**民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用する。**
- サウンディング等、民間事業者等との対話を通じて**公民連携による取組**を進めることにより、**民間が担い、力を発揮できる内容を明確化**する。

3－5. 駅前空間再編の検討

- 駅前空間再編の考え方をふまえ、**駅北側に拠点施設を整備**するため、機能の再配置を検討する。
- 駅北側には地下駐車場が存在するため、**拠点施設の配置は現在の駅前広場整備予定地（バスターミナル）または市民広場が考えられる。**
- 坂出駅やバス等の公共交通を利用する人の利便性向上につながる機能配置について検討をおこなう。
- 拠点施設整備の考え方をふまえ、拠点施設と広場が一体的に利用可能、かつ公共交通を利用する人が拠点施設を利用しやすい機能配置について検討をおこなう。
- 中心市街地に居住を誘導し、にぎわいを創出するためにも、商店街エリアからの南側への交通アクセスの確保を図るとともに、拠点施設と商店街エリアをはじめとする各エリアおよび中心軸とのつながりを生み出せるよう検討をおこなう。
- 大きく分けて、現状の駅前広場計画を踏襲する場合と現状の駅前広場計画を変更し、道路線形を変更する案が考えられる。

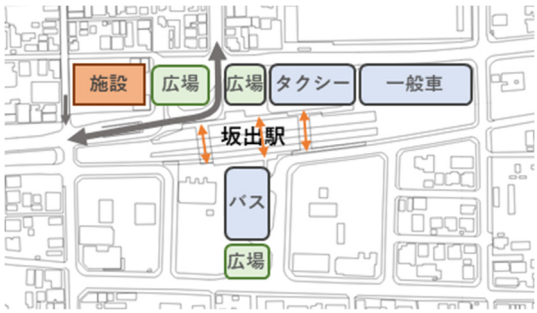
■拠点施設配置の検討（現駅前広場計画を踏襲し、拠点施設を配置）

	市民広場部分に拠点施設を配置	バスターミナル上部に拠点施設を配置
考え方	● 現駅前広場計画を維持。 ● 駅北東側の市民広場部分に拠点施設を配置。	● 現駅前広場計画を維持。 ● 立体道路制度の活用により、駅北西側バスターミナル上部に拠点施設を配置。
配置イメージ		
特徴	● 市民広場を廃止することにはなるが、広場は大きく確保できる。 ● 拠点施設と広場が交通空間で分断される。 ● 拠点施設が商店街エリアから離れている。 ● バスターミナル、タクシー乗り場が駅改札から遠くなる。 ● 北西商店街側からの車両南進が課題として残る。 ● 一般車の乗降場は現状の位置と変わらず、駅改札に近接している。 ● 拠点施設とバスターミナルが離れているため、公共交通利用者が拠点施設を利用しにくい。	● 広場を大きく確保できる。 ● 拠点施設が商店街エリアと近接している。 ● 拠点施設をバスターミナル上部に配置するため、広場との一体性の確保が難しい。 ● 拠点施設に構造上の制約が多く発生する。 ● バスターミナル、タクシー乗り場が駅改札から遠くなる。 ● 北西商店街側からの車両南進が課題として残る。 ● 一般車の乗降場は現状の位置と変わらず、駅改札に近接している。 ● バス利用者が拠点施設を利用しやすい。 ● 市民広場（公園機能）の維持確保ができる。

※施設：拠点施設、広場：広場機能、バス：バスターミナル、タクシー：タクシー乗り場、一般車：一般車乗降場

※配置イメージは機能配置を示すものであり、施設や広場等の大きさを示すものではない

■拠点施設配置の検討（道路線形を変更し、拠点施設を配置）

	バスターミナル上部に拠点施設を配置	駅北西側に拠点施設を配置
考え方	● 駅北西側のバスターミナル上部に拠点施設を配置。 ● 道路線形を変更し、拠点施設の前面に広場を設ける。	● 駅北西側に拠点施設を配置。 ● バスターミナルを駅南側に配置。 ● 道路線形を変更し、拠点施設と一体的な広場を設ける。
配置イメージ		
特徴	● 北西商店街側からの車両南進がスムーズになる。 ● 拠点施設が商店街エリアと近接している。 ● 拠点施設をバスターミナル上部に配置するため、広場との一体性の確保が難しい。 ● 道路により広場が分断される。 ● 拠点施設に構造上の制約が多く発生する。 ● バスターミナルと駅改札が遠くなり、道路により分断される。 ● バス利用者が拠点施設を利用しやすい。 ● 一般車の乗降場とタクシー乗り場は現状の位置と変わらず、駅改札に近接している。 ● 市民広場（公園機能）の維持確保ができる。	● 広場と一体的な拠点施設整備が可能。 ● 北西商店街側からの車両南進がスムーズになる。 ● バスターミナルが駅改札に近接し交通結節機能の強化につながる。 ● 拠点施設が商店街エリアと近接している。 ● 道路により広場が分断される。 ● 一般車の乗降場が駅改札から遠くなる。 ● 拠点施設とバスターミナルが離れているため、公共交通利用者が拠点施設を利用しにくい。 ● タクシー乗り場は現状の位置と変わらず、駅改札に近接している。 ● 市民広場を廃止することによる公園機能の低下。

	市民広場部分に拠点施設を配置
考え方	● 駅北東側の市民広場部分に拠点施設を配置。 ● 道路線形を変更し、拠点施設と一体的な広場を設ける。
配置イメージ	
特徴	● 広場を大きく確保できる。 ● 広場と一体的な拠点施設整備が可能 ● 現駅前広場計画の課題であった北西商店街側からの車両南進がスムーズになる。 ● 拠点施設が商店街エリアから離れている。 ● バスターミナルとタクシー乗り場が駅改札から遠くなり、道路により駅と分断される。 ● 一般車の乗降場は現状の位置と変わらず、駅改札に近接している。

※施設：拠点施設、広場：広場機能、バス：バスターミナル、タクシー：タクシー乗り場、一般車：一般車乗降場

※配置イメージは機能配置を示すものであり、施設や広場等の大きさを示すものではない

3－6. 今後の検討課題

● 本構想における検討をふまえ、今後の検討課題は下記となる。

周辺エリアとの関係性の整理

反映

駅前空間整備	拠点施設整備
土地利用 ・ 中心軸や周辺エリアへの波及効果を考慮した機能配置のあり方 ・ 都市公園のあり方 ・ 道路線形のあり方　等 交通計画 ・ バスやタクシー等の公共交通のあり方 ・ 道路網のあり方　等 屋外空間 ・ 居心地の良い空間のあり方 ・ 周辺エリアとの連続性のあり方 ・ 日常と非日常での利用しやすい空間のあり方　等	導入機能 ・「まちのリビング」と呼べる拠点機能の検討 ・ 民間ノウハウ活用範囲の検討 ・ 収益機能導入の可能性検討　等 公共施設再編 ・ 中心市街地における公共施設のあり方 ・ 各施設機能の移設や統廃合の検討　等 内外部空間 ・ 市民の居場所となる空間のあり方 ・ 居心地の良い空間のあり方 ・ 屋内外が一体となる空間の検討　等

反映

市民や民間との共創

市民との共創	民間との共創
・ 市民との対話手法の検討 ・ 市民が主体的に関わる手法の検討 ・ 高校生 WS（さかいで未来会議）の今後のあり方 ・ 子育て世代のニーズの把握　等	・ 民間ノウハウ活用の検討 ・ 民間とのビジョンの共有 ・ 民間との役割分担の検討 ・ 発注方式の検討　等

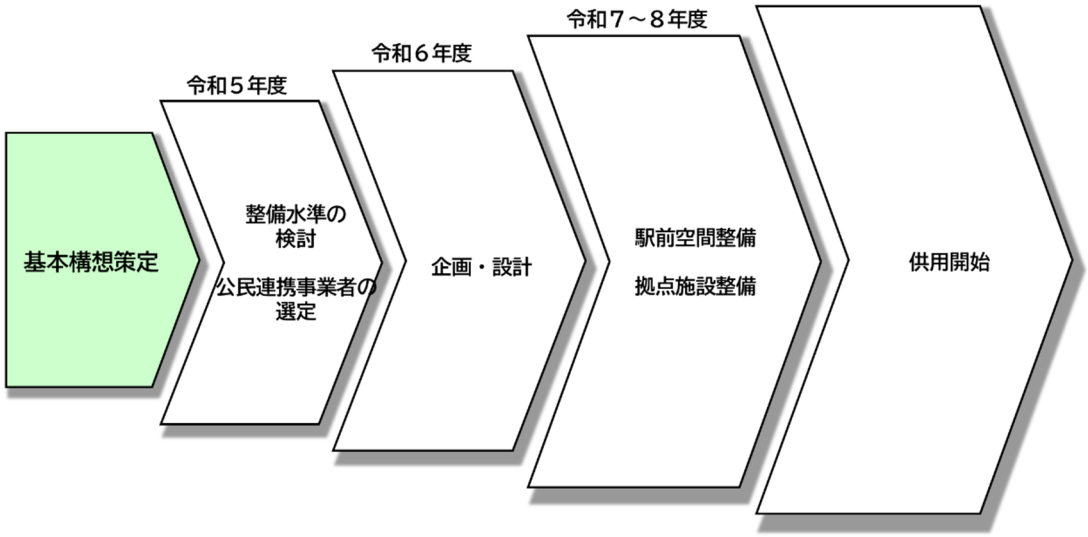
3－7. 今後の進め方

（1）事業手法

- 本構想の実現にあたっては、整備完了後も持続可能なものにするため、**公民連携手法を用いて**事業を進めていく。公民連携とは、行政と民間が連携して公共サービスを提供する仕組みであり、**民間の知恵やノウハウ、資源等を活用**し、**サービスの質の向上や財政資金の効率的使用**を図る手法である。
- 公民連携手法による効果を最大限に発揮するためには、民間のノウハウ等をいかに活用するかが重要であることから、サウンディング等、**民間事業者との対話**を行いながら、駅前空間再編や拠点施設整備の考え方も含めて公民連携手法を用いて事業を進めていく。

（2）整備スケジュール

本構想をふまえ、今後のスケジュール案は下記となる。

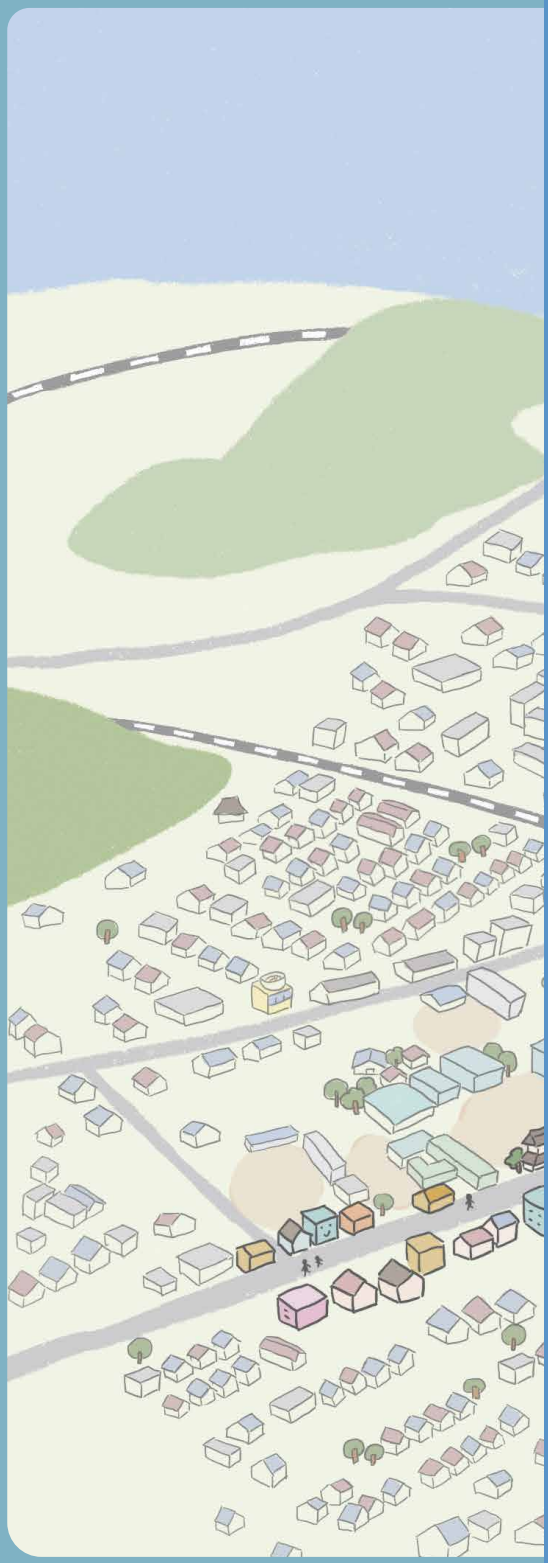


※上記は現時点でのスケジュール案を記載しており、今後、公民連携手法を用いて進めていくことから、状況に応じ、変更する場合がある。

坂出駅周辺再整備基本構想

発行年月：令和5年3月

発　　行：坂出市政策部政策課公民連携・DX 推進室



坂出市 政策部 公民連携・DX推進課

〒762-8601 香川県坂出市室町二丁目3番5号
TEL：0877-44-5080
https://www.city.sakaide.lg.jp/soshiki/kouminrenkei/